

令和元年台風第19号に伴う浸水被害に関する住民説明会

(令和2年10月 中間報告)

令和2年10月30日, 31日

調布市

次第

1. これまでの経緯
2. 降雨・水位等の基礎情報
3. 浸水発生時の検証
 - 3-1. 調布幹線流域
 - 3-2. 羽毛下・根川幹線流域
4. 狛江市検証結果との比較
5. 当面の対策について
6. 最終報告までの課題
7. 国土交通省の多摩川における対策

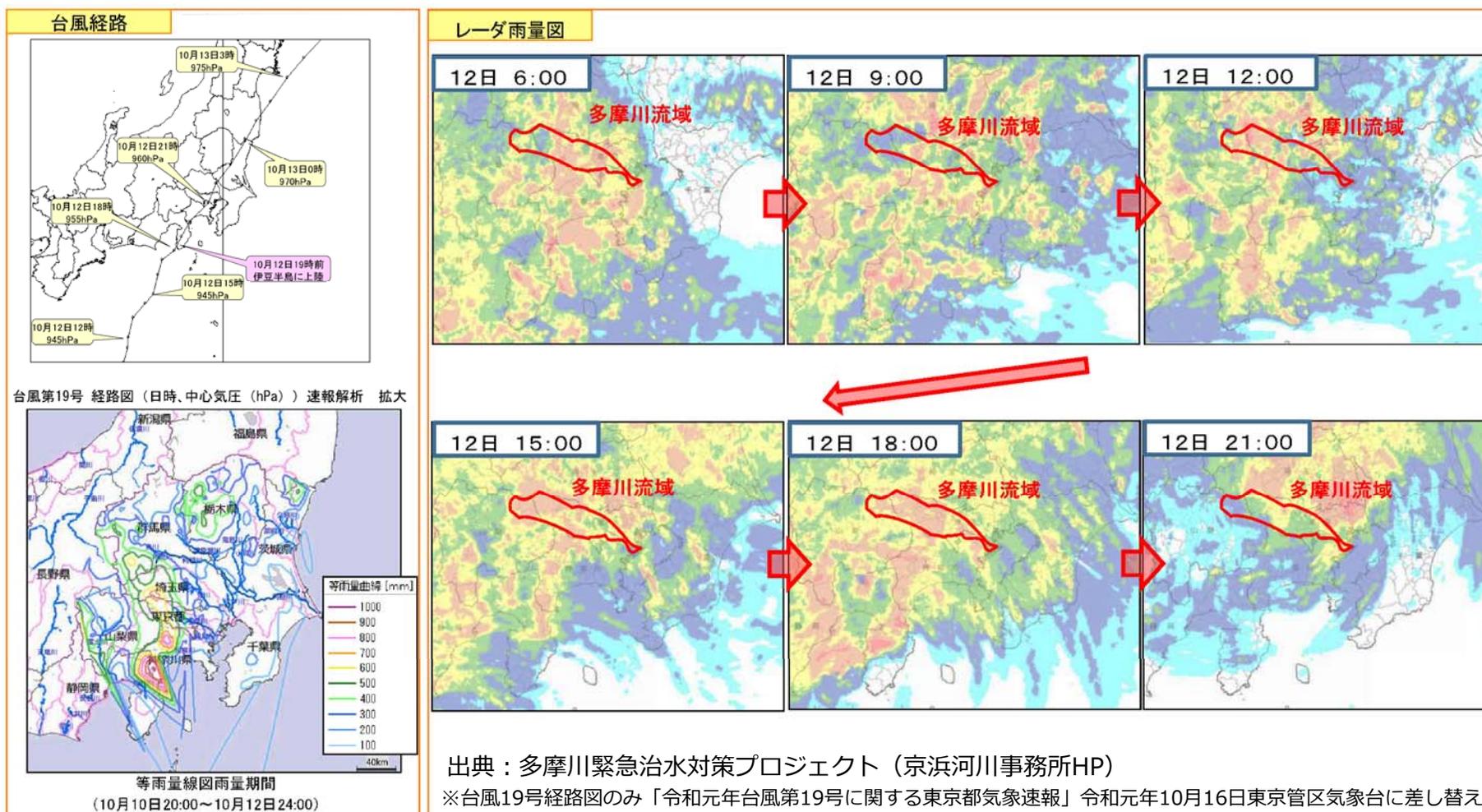
1. これまでの経緯

- ・ **令和元年10月12日～13日**
台風第19号による被災
- ・ **令和元年11月4日**
台風第19号における被害状況及び被災者支援についての住民説明会
 - ・ 市内の被害状況及び住居や家財に被害を受けた方への支援制度
- ・ **令和2年4月30日**
台風19号の水害対策（令和元年4月中間報告・書面開催）
 - ・ 原因究明経過報告
 - ・ 対策について
- ・ **令和2年10月30日、31日**
令和元年台風第19号に伴う浸水被害に関する住民説明会（令和2年10月中間報告）
 - ・ 基礎情報の整理
 - ・ 浸水発生時の検証
 - ・ 当面の対策
 - ・ 最終報告までの課題

2. 降雨・水位等の基礎情報

■ 台風第19号の概要

- ◆ 令和元年10月12日19時前に伊豆半島に上陸し、その後関東地方を通過し、13日12時に日本の東で温帯低気圧に変わった。
- ◆ 台風の接近・通過に伴い、広範囲で大雨、暴風、高波、高潮となり、総降水量は、東日本を中心に17地点で500mmを超えた。

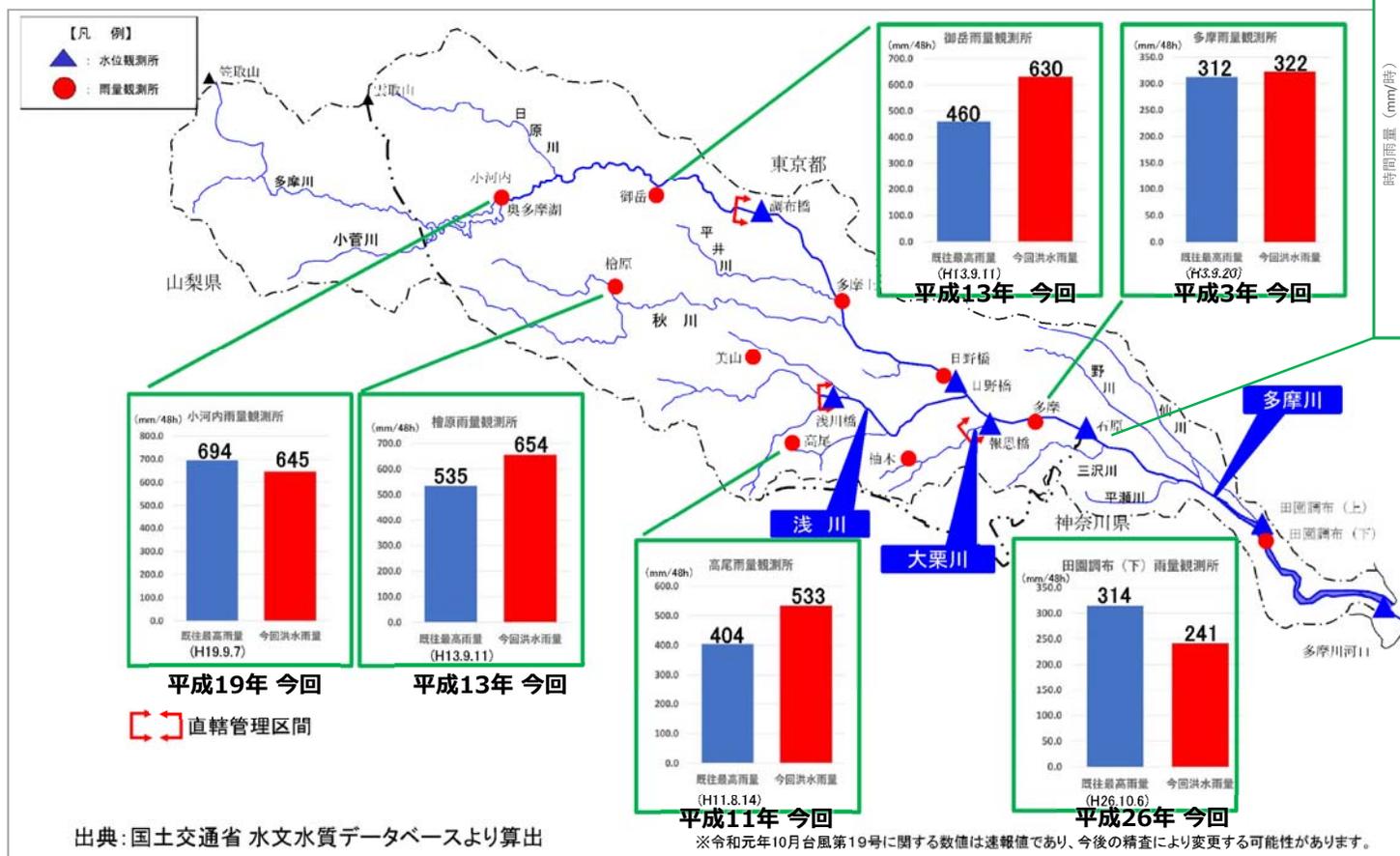
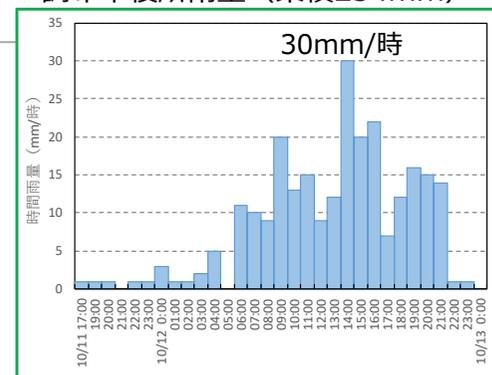


2. 降雨・水位等の基礎情報

■ 台風第19号の概要

- ◆ 小河内・檜原・御岳において、48時間雨量が600mmを超え、檜原・高尾・御岳・多摩においては、観測を開始してから最大の雨量を観測した。
- ◆ 調布市役所における観測雨量は、最大30mm/時、累積雨量254mmであった。

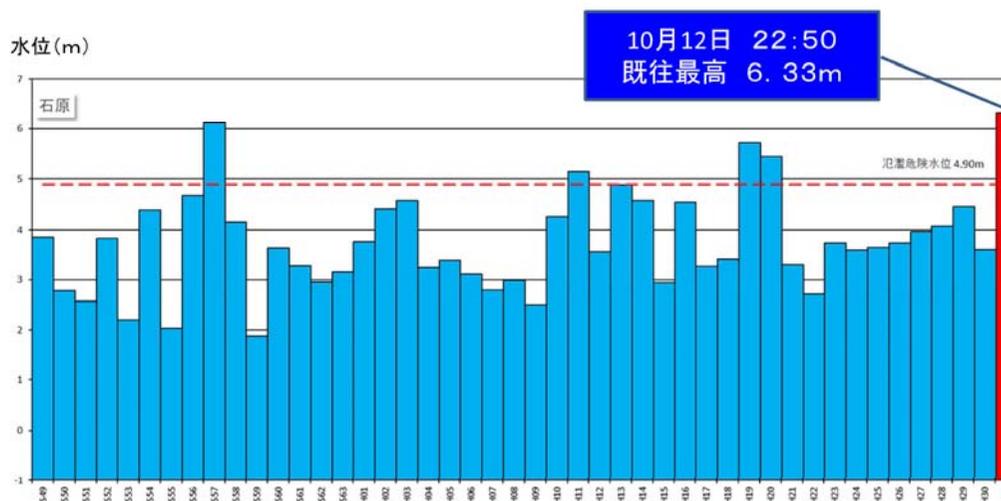
調布市役所雨量（累積254mm）



2. 降雨・水位等の基礎情報

■ 多摩川水位の状況

- ◆ 多摩川の基準地点である石原水位観測所（東京都調布市）においては、氾濫危険水位を超過し、10月12日22時50分には、既往最高（※1）のピーク6.33mの水位を記録した。



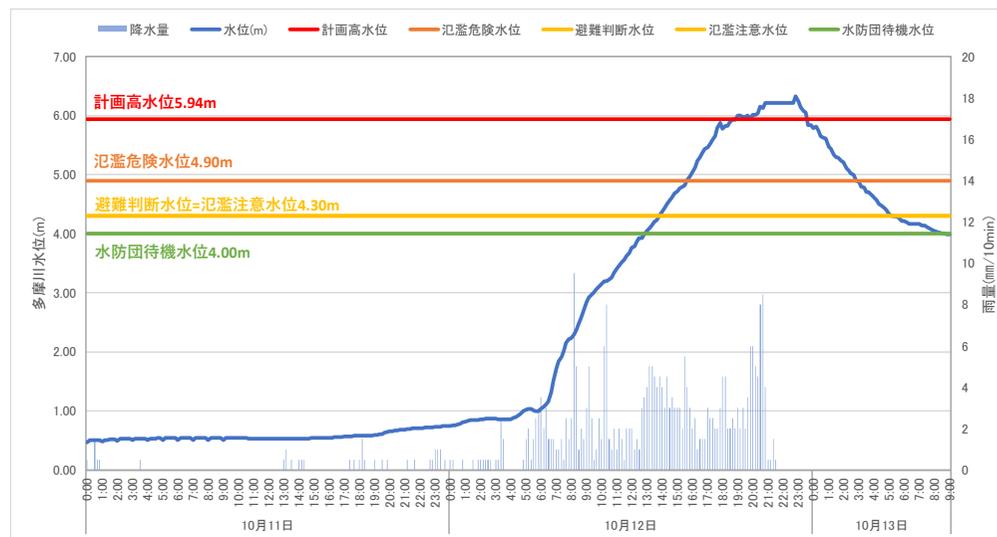
出典：国土交通省 水文水質データベースより算出

※1 国管理以降にて集計

※2 令和元年10月台風第19号に関する数値は速報値であり、今後の精査により変更する可能性があります。

出典：多摩川緊急治水対策プロジェクト（京浜河川事務所HP）

- ◆ 10月12日13時に水防団待機水位である4.0mを超過し、その後も水位が上昇した。
- ◆ 10月12日13時50分に避難判断水位及び氾濫注意水位である4.3mを超過し、18時40分に計画高水位である5.94mを超過した。
- ◆ さらに水位が上昇し、石原水位観測所において22時50分に観測した6.33mをピークに、その後水位が低下した。



2. 降雨・水位等の基礎情報

■ 調布市内の被害概要

1. 人的被害 死傷者報告なし

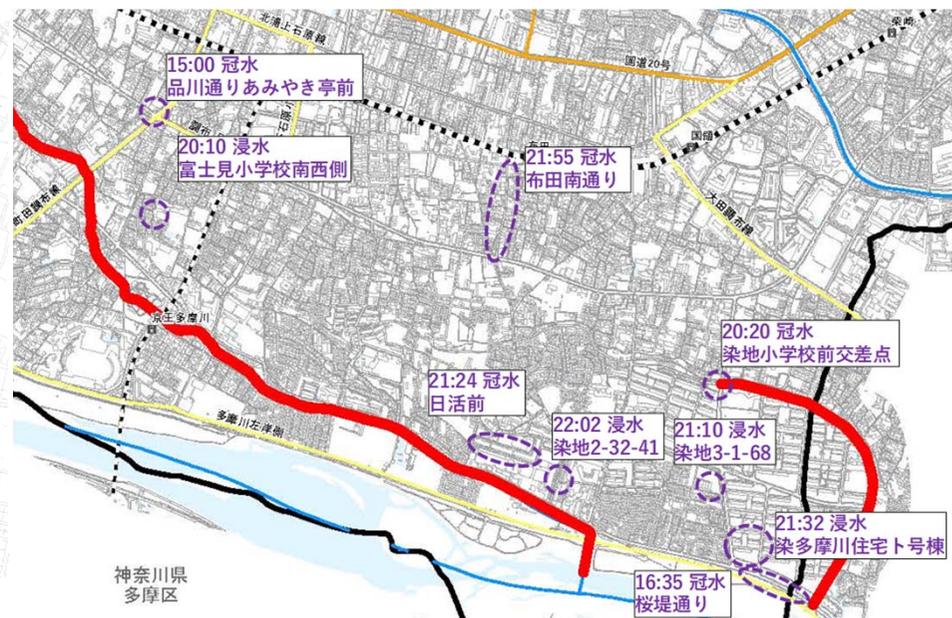
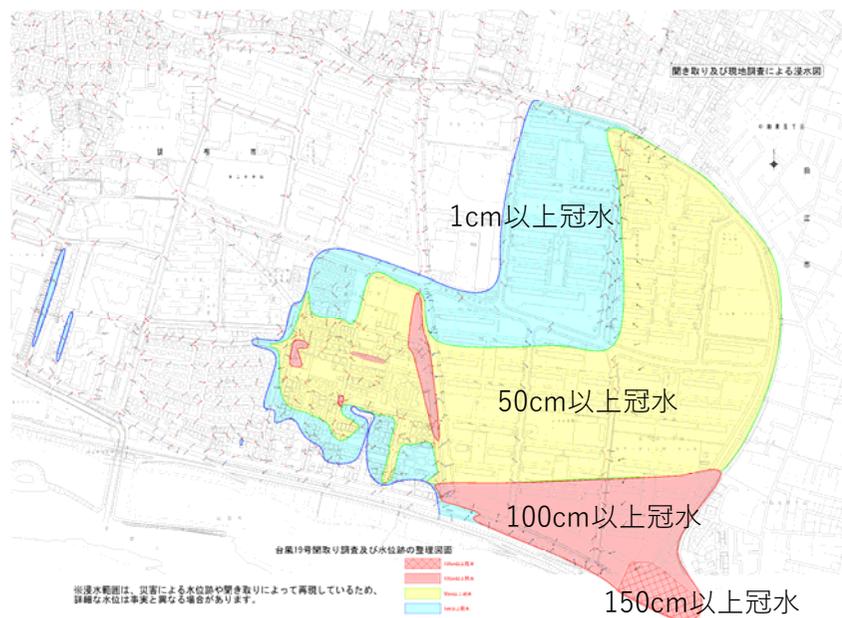
2. 家屋被害軒数

半壊	一部損壊（準半壊）	一部損壊（10%未満）	合計
133	90	23	246

3. 農業被害

- ・ ビニールハウスの一部破れや天窓のゆがみ等の被害
- ・ 染地地区において畑の冠水による農作物破棄等の被害

4. 聞き取りおよび現地調査による浸水概要 5. 活動記録による浸水・冠水時刻



3. 浸水発生時の検証

■ 検証の方法：シミュレーションによる台風第19号当時の状況再現

■ シミュレーションの概要

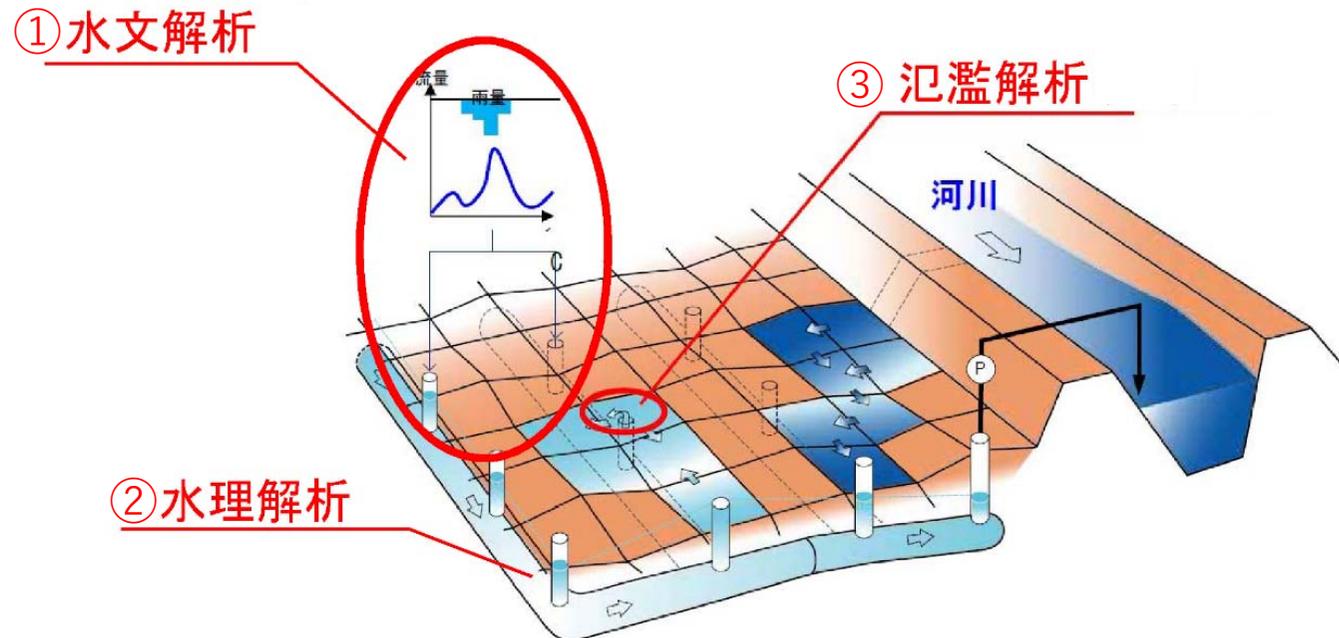
ステップ①： 地表面に降った降雨が、どのように水路や下水道管に入ってくるかを計算します。（水文解析）

ステップ②： 水路や下水道管の中を、どのような流量で流れるかを時間の変化を追って計算します。（水理解析）

ステップ③： 水路や下水道管から溢れた水が、どのように地表に溜まるかを時間の変化を追って計算します。（氾濫解析）

このほか、排水樋門のゲート操作を反映させた計算を行います。

また、今年度の3回の降雨時の水位観測値を用いて、シミュレーション条件の校正を行っています。



3-1. 浸水発生時の検証（調布幹線流域）

■ 調布排水樋管概要



樋管ゲート操作について

→ 現場において職員が水位の上昇，水の流れなどを目視で観測し，逆流が確認された際には閉鎖することとしていた。



調布市側ゲート



多摩川側ゲート

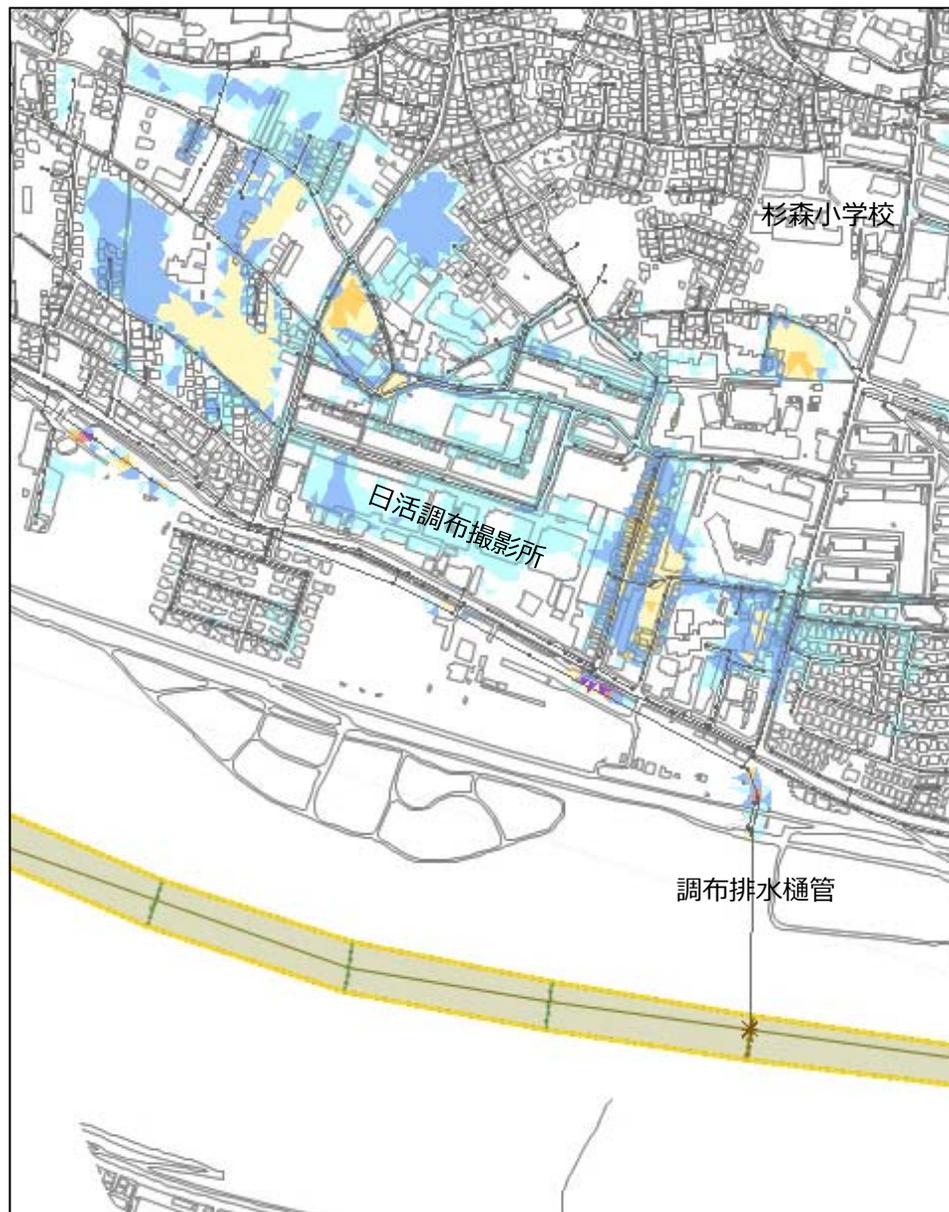
3-1. 浸水発生時の検証（調布幹線流域）

■ 調布排水樋管の操作等状況

日時	対応状況	調布排水樋管
10月12日 11：20頃	樋管水位 3.5 mを確認。 調布幹線から多摩川への流れが確認できたため、開放を継続した。	開放
13：00頃	樋管水位 4.7 mを確認。 調布幹線から多摩川への流れが確認できたため、開放を継続した。	開放
15：00頃	水位計の上限水位（5 m）を超えていたため、正確な水位は不明。 調布幹線から多摩川への流れが確認できたため、開放を継続した。	開放
18：20頃	調布幹線の水位が擁壁天端まであと10センチ程度の余裕があることを確認、越水・逆流はなかったため、開放を継続した。	開放
22：20頃	樋管水位を確認 越水・逆流はなし。 なお、22：50の多摩川最高水位の際も越水・逆流はなし。	開放

3-1. 浸水発生時の検証（調布幹線流域）

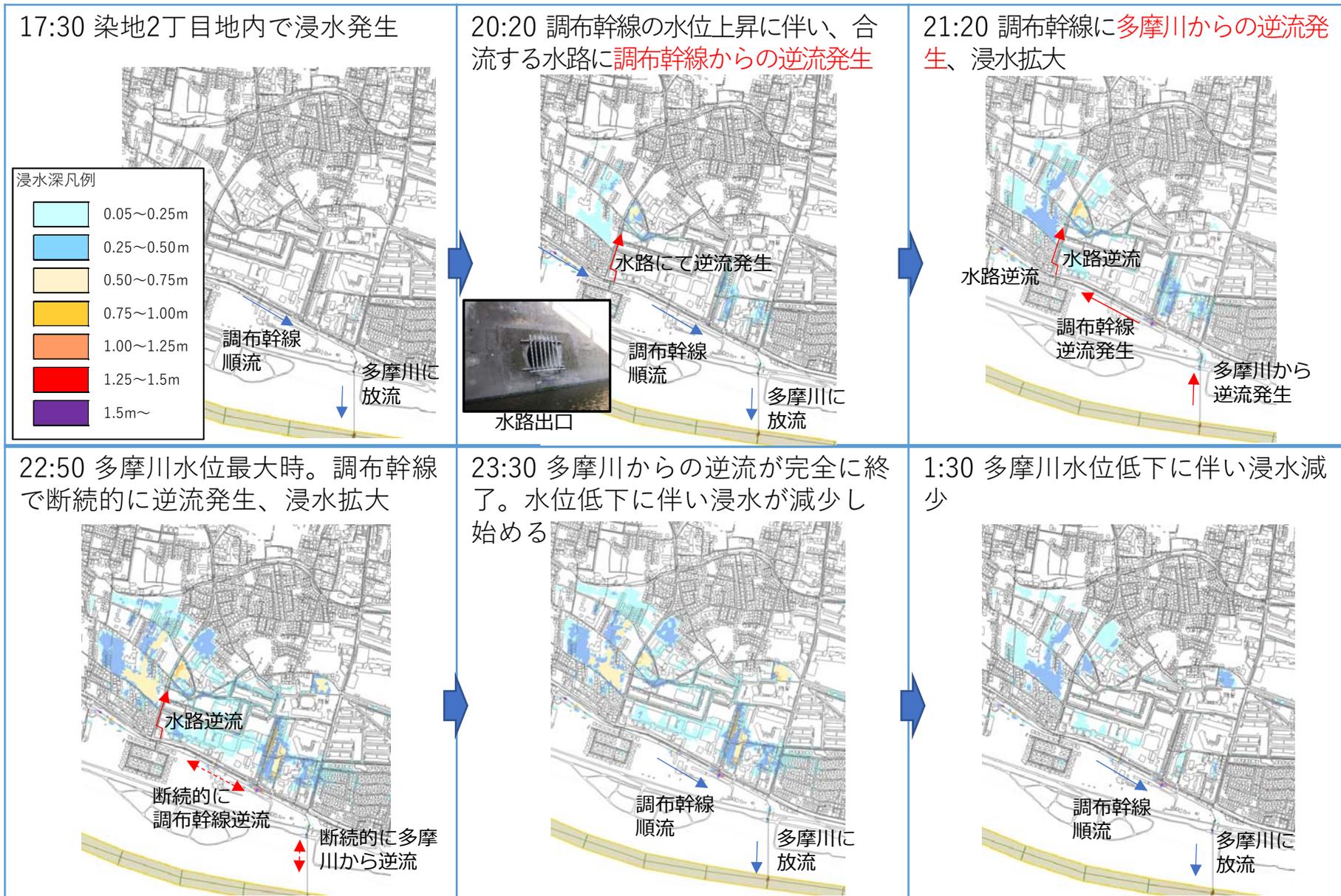
■ シミュレーション結果（最大浸水深） 22:50時点



浸水深凡例	
	0.05~0.25m
	0.25~0.50m
	0.50~0.75m
	0.75~1.00m
	1.00~1.25m
	1.25~1.5m
	1.5m~

3-1. 浸水発生時の検証（調布幹線流域）

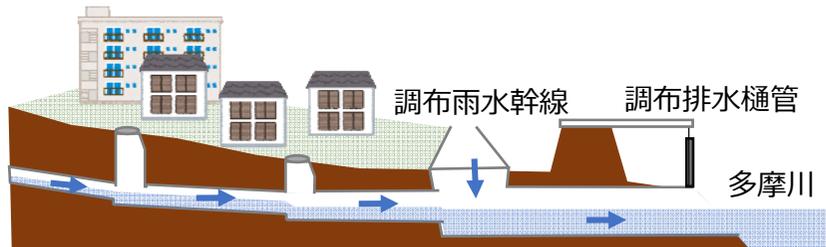
■ シミュレーション結果（時系列）



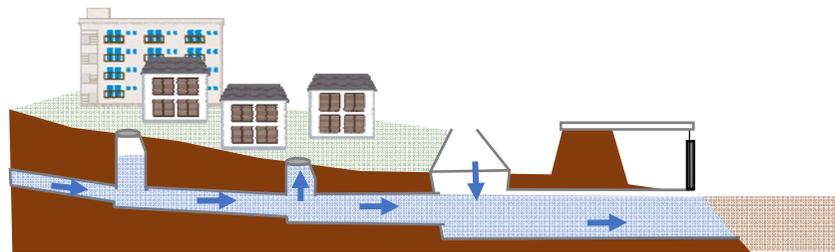
3-1. 浸水発生時の検証（調布幹線流域）

■ 浸水イメージ図

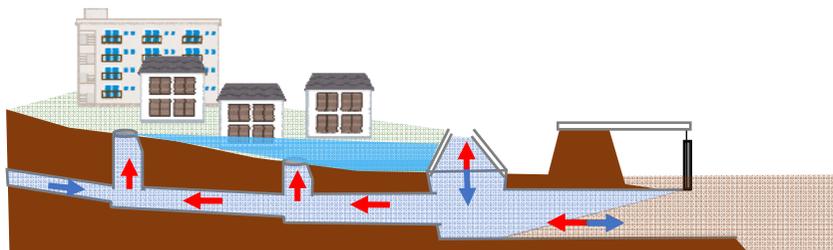
① 初期段階：順調に多摩川へ排水



② 調布幹線の水位上昇により排水能力が低下し低地部で浸水発生



③ 多摩川の水位が上昇し、調布幹線に合流する枝線にて逆流が発生、浸水拡大。その後の多摩川水位上昇に伴い、断続的に多摩川から調布幹線への逆流発生



平時



17時半から



21時20分ごろ



まとめ

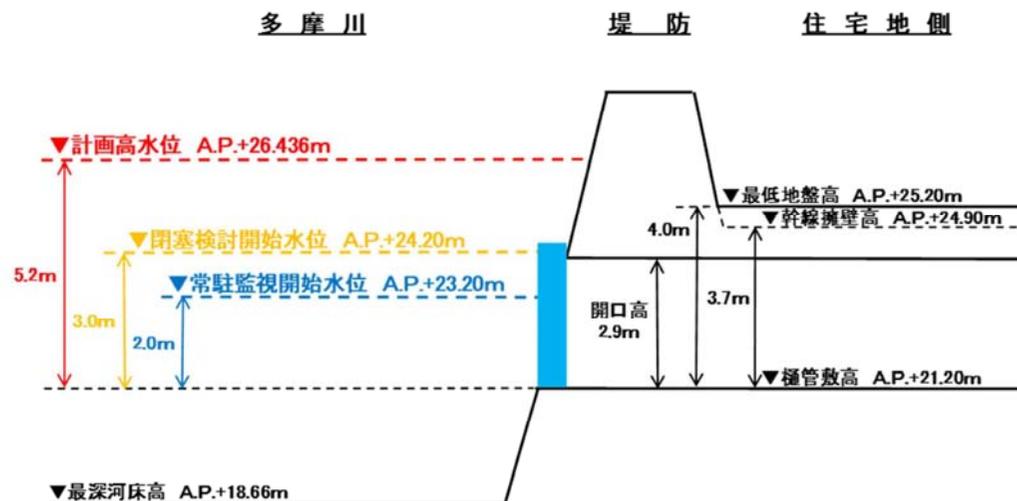
- ・ 多摩川から調布幹線への逆流は発生したものの、水位上昇は調布幹線内で収まり調布幹線からの溢水は生じていない。
- ・ 調布幹線の水位上昇に伴う水路への逆流により、低地部にて水路から溢水発生。

3-2. 浸水発生時の検証（羽毛下・根川雨水幹線流域）

■ 六郷排水樋管概要



樋管ゲート操作規則



26

※狛江市「令和元年東日本台風に伴う浸水被害対策 最終報告」より抜粋



写真3 六郷排水樋管



写真4 六郷排水樋管水位痕跡

※狛江市「令和元年東日本台風に伴う浸水被害対策 最終報告」より抜粋

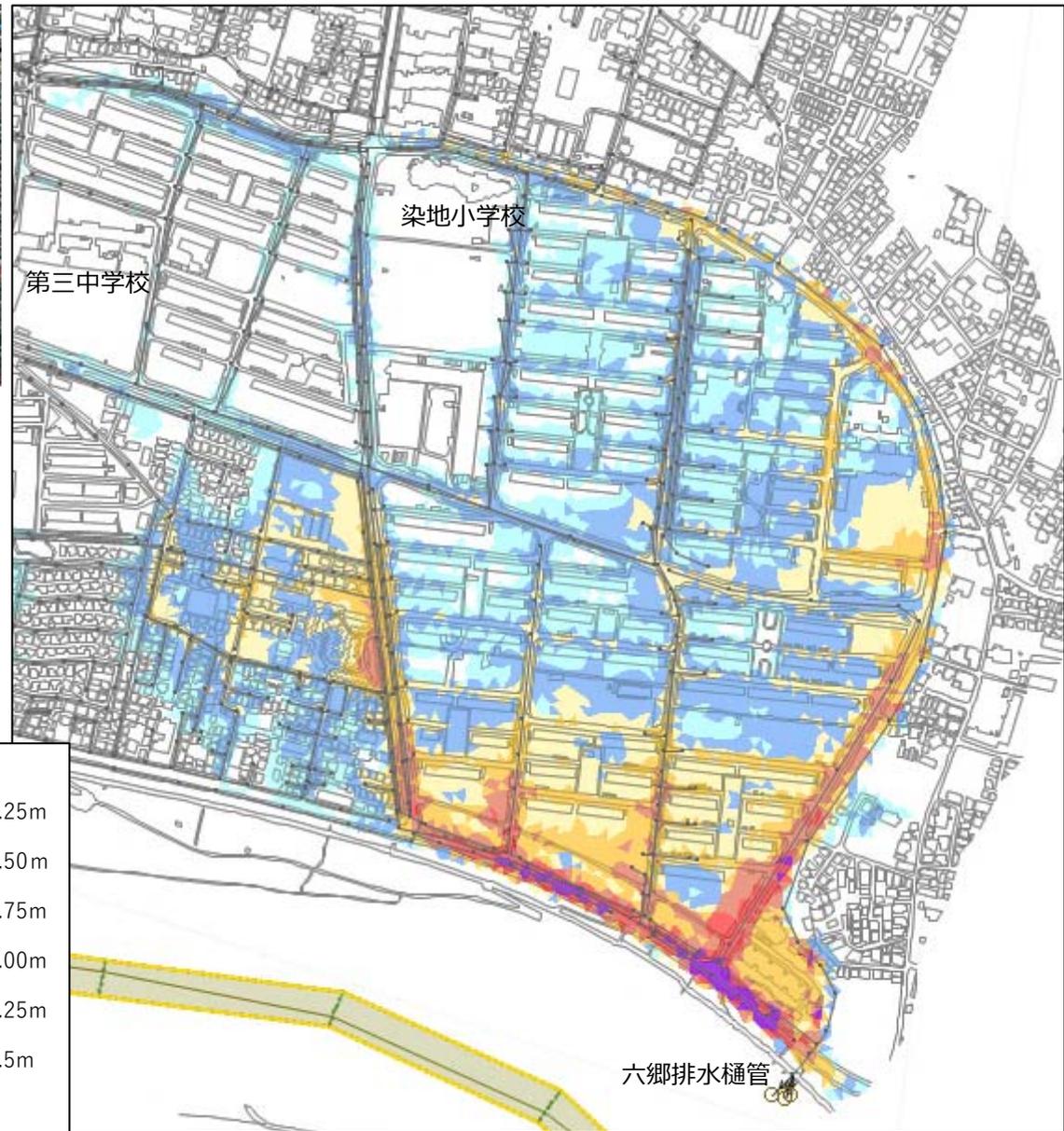
3-2. 浸水発生時の検証（羽毛下・根川雨水幹線流域）

■ 六郷排水樋管の操作等状況

日時	対応状況（狛江市資料から引用）	六郷排水樋管
10月12日 12:00	職員が樋管に常駐を開始。降雨があり，多摩川への流れがあったため，開門のままとした。	開放
15:10	消防団に待機を依頼。	開放
16:00	常設ポンプ及び消防団ポンプ車にて排水作業開始。根川から多摩川への流れが確認できたため，樋管は閉めていない。	開放
18:00	六郷さくら通りの冠水範囲が広がっていることと消防団のポンプ車が増えたことにより，樋管を一旦閉め排水作業を行う。	閉
18:20	冠水範囲がさらに広がったため，樋管を開け排水作業を継続。	開放
19:30	石原の水位観測所水位が6 mを超えたため，安全を考慮して職員は退避。引き続き降雨が見込まれたこと，多摩川への流れが確認できたことにより，開門のままとした。	開放
23:00	市内の雨が小康状態となったため，閉門し常設ポンプにて排水を開始。その後多摩川の水位を監視しながら開門した。	閉⇒開放
10月13日 2:50	冠水解消	開放

3-2. 浸水発生時の検証（羽毛下・根川雨水幹線流域）

■ シミュレーション結果（最大浸水深） 23：40時点



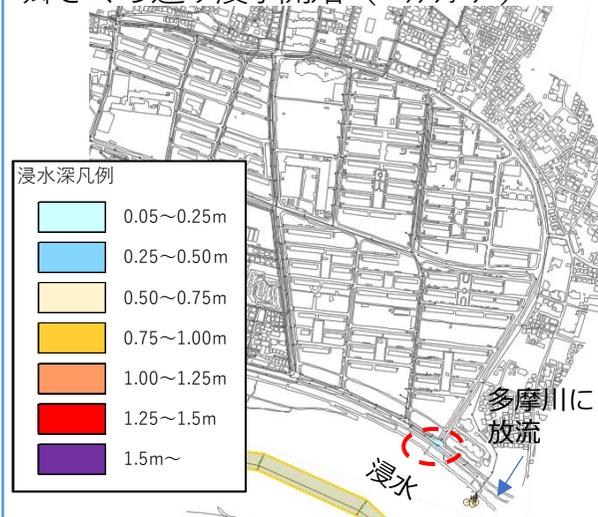
浸水深凡例

	0.05~0.25m
	0.25~0.50m
	0.50~0.75m
	0.75~1.00m
	1.00~1.25m
	1.25~1.5m
	1.5m~

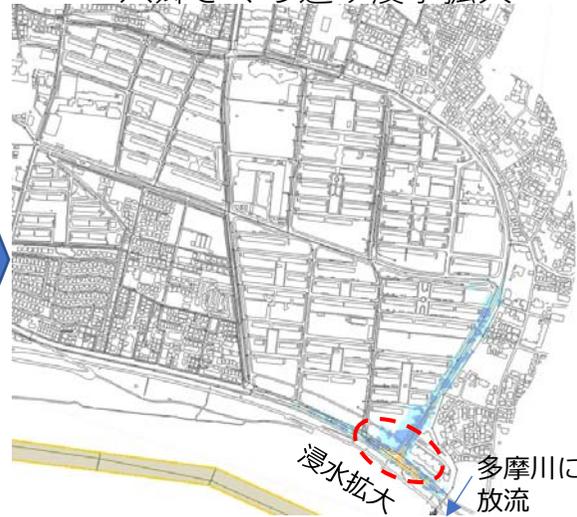
3-2. 浸水発生時の検証（羽毛下・根川雨水幹線流域）

■シミュレーション結果（時系列）

13:35 根川第一幹線水位上昇による六郷さくら通り浸水開始（バックウォーター）



16:10 根川第一幹線水位上昇による六郷さくら通り浸水拡大

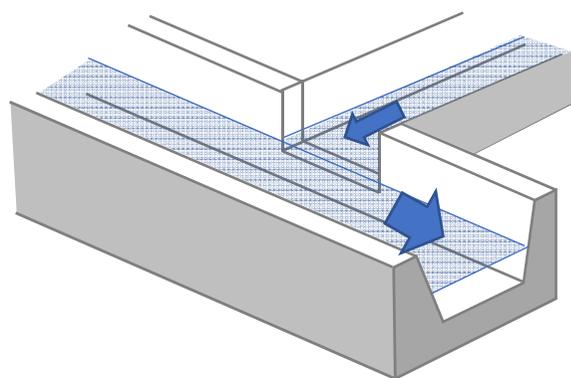


16:40 根川第一幹線による浸水拡大

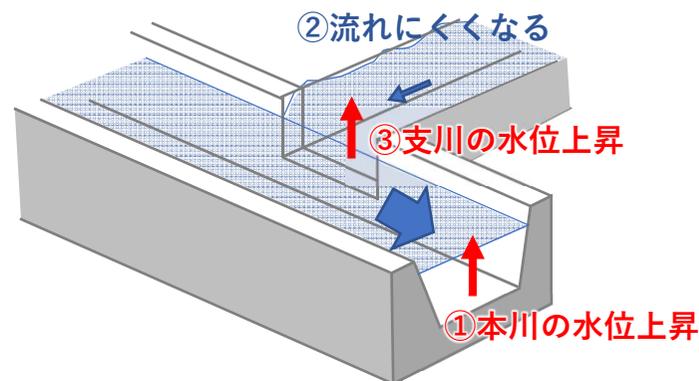


※バックウォーターとは

下流側の本川の水位が上昇することで、本川に合流する支川の水が流れにくくなり、支川の水位が上昇する現象である。



通常時



バックウォーター発生時

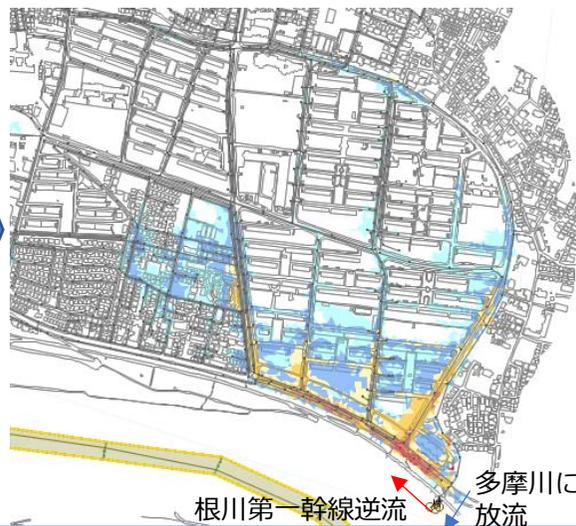
3-2. 浸水発生時の検証（羽毛下・根川雨水幹線流域）

■ シミュレーション結果（時系列）

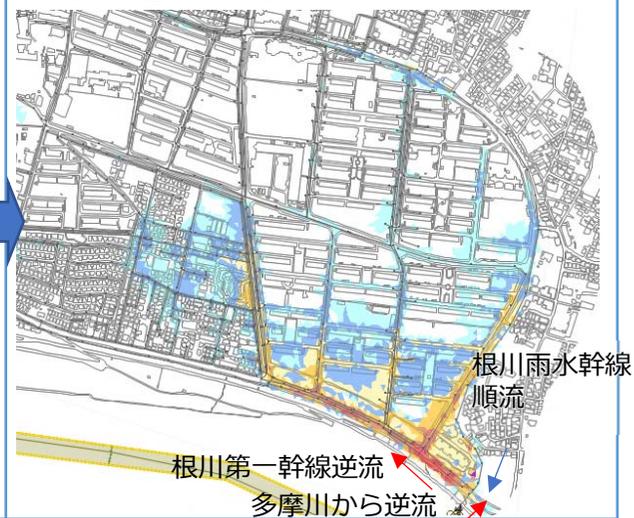
19:30 多摩川水位上昇に対する安全確保のため職員退避、浸水拡大



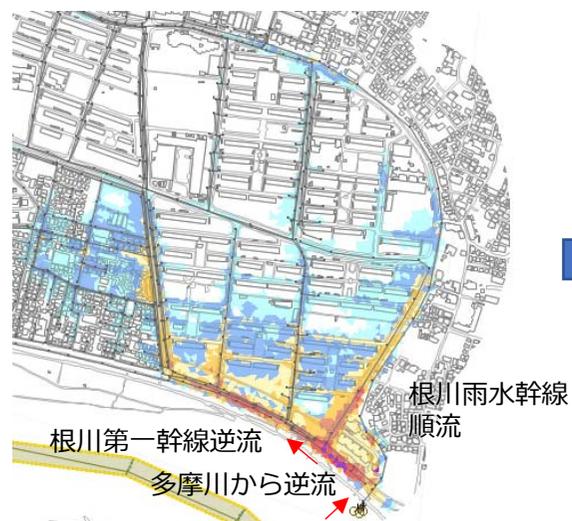
21:00 浸水拡大



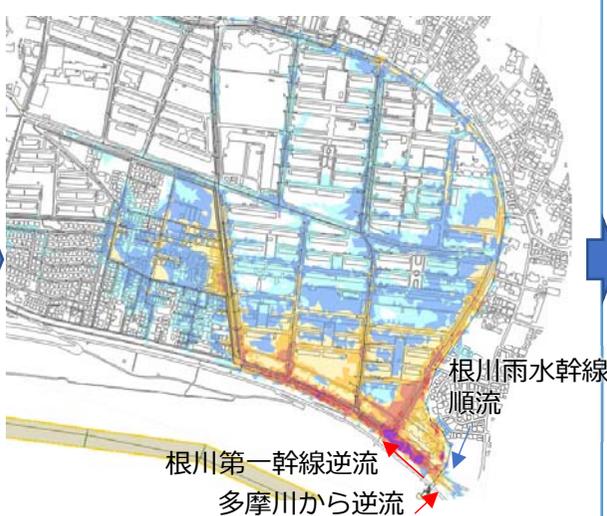
21:30 六郷排水樋管において多摩川からの逆流が発生



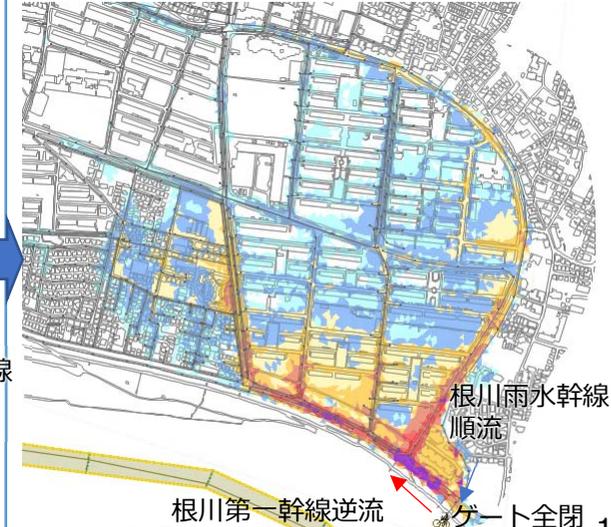
21:50 多摩川計画高水位到達時
多摩川からの逆流の継続



22:40 六郷排水樋管地点での多摩川水位最大時
多摩川からの逆流の継続



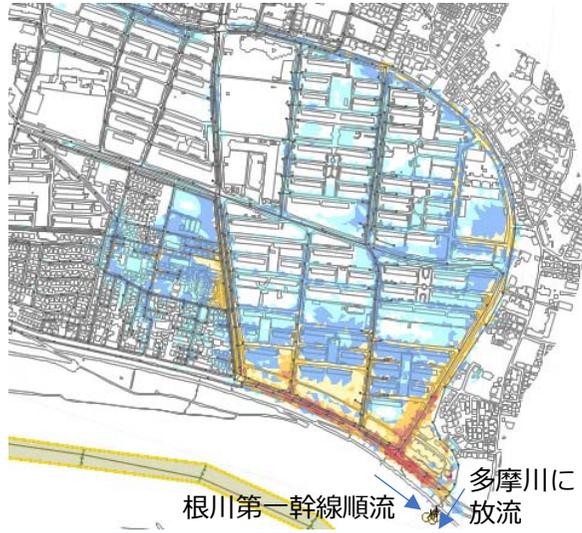
23:00 樋門全閉（→この後、状況を確認しながら段階的に開作業）



3-2. 浸水発生時の検証（羽毛下・根川雨水幹線流域）

■ シミュレーション結果（時系列）

1:30 多摩川水位低下に伴い浸水軽減



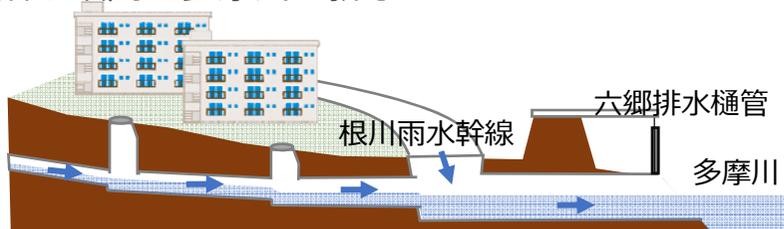
2:30 さらに浸水軽減



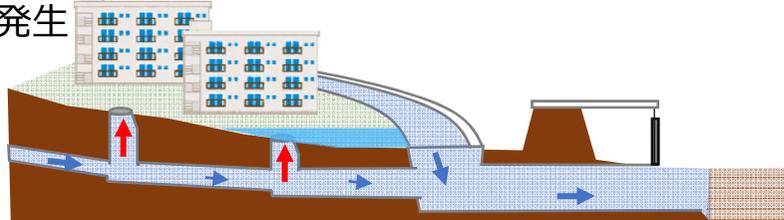
3-2. 浸水発生時の検証（羽毛下・根川雨水幹線流域）

■ 浸水イメージ図

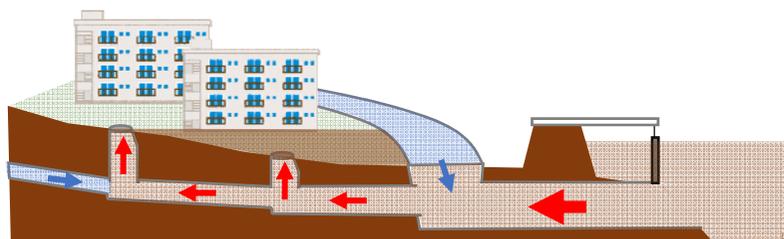
① 初期段階：順調に多摩川へ排水



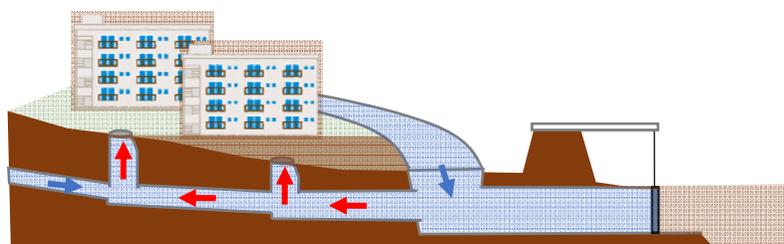
② 根川雨水幹線の水位上昇によりバックウォーターが生じ低地で浸水発生



③ 多摩川の水位が上昇し逆流が発生。土砂流入、浸水拡大



④ 樋門閉により多摩川からの逆流停止。内水が溢水



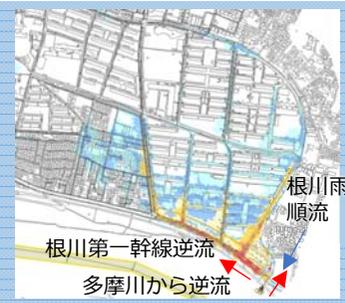
平時



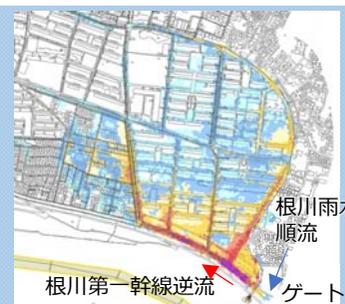
13:35
から



21:30



23時
ごろ



まとめ ・多摩川からの逆流が発生し、低地部に多摩川の水が浸水した。

4. 狛江市検証結果との比較

■ 比較検証した項目

- ①ピーク時浸水深 ④浸水軽減時刻
- ②浸水発生時刻 ⑤六郷排水樋管ゲート操作検証
- ③逆流発生時刻 ⑥浸水量

■ 前提条件の違い

項目	調布市前提条件	狛江市前提条件
六郷樋管開閉	23:00全閉、23:40から0:10まで10分おきに25%ずつ開いていく（※1）	23:00全閉、2:50全開
多摩川水位	・六郷排水樋管地点 →複数の多摩川観測地点のピーク水位から想定した水位（※2）	・六郷排水樋管地点 →現地の痕跡にもとづくピーク水位

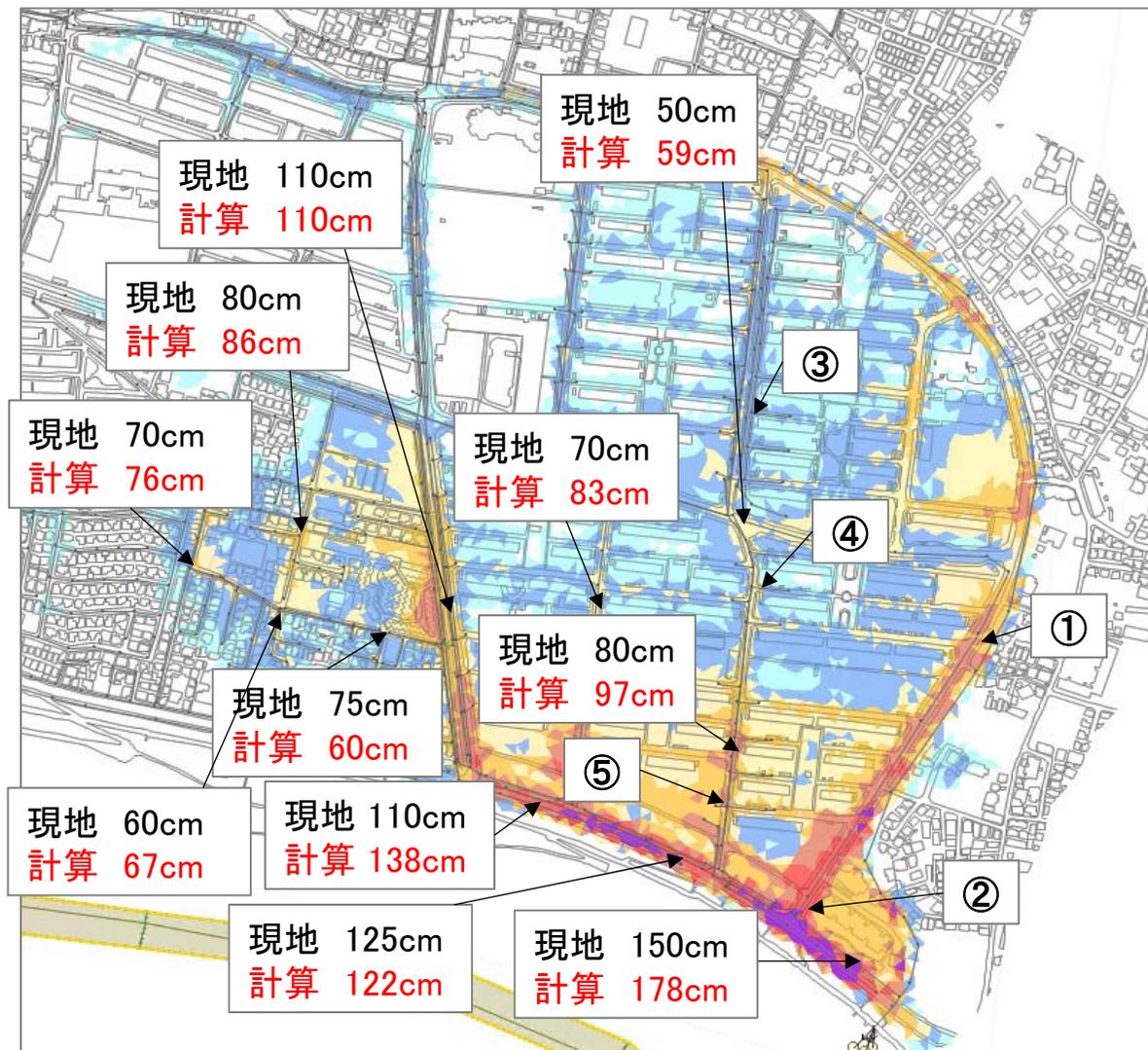
※1 23時以降の樋管の開閉操作状況が再現されるよう六郷排水樋管ゲートの開閉時刻を設定した。
（当日再現に近づけるため、ゲートの開閉は23:40～0:40まで開度を段階的に増加させた）

※2 上下流における複数の多摩川観測水位との相関性を検証し、狛江市前提条件より20cm低い水位に設定した。

4. 狛江市検証結果との比較 (①ピーク時浸水深)

■ 狛江市検証結果とのピーク時浸水深の相違点

- ・ 狛江市検証結果、調布市検証結果ともシミュレーション結果の浸水深をほぼ再現



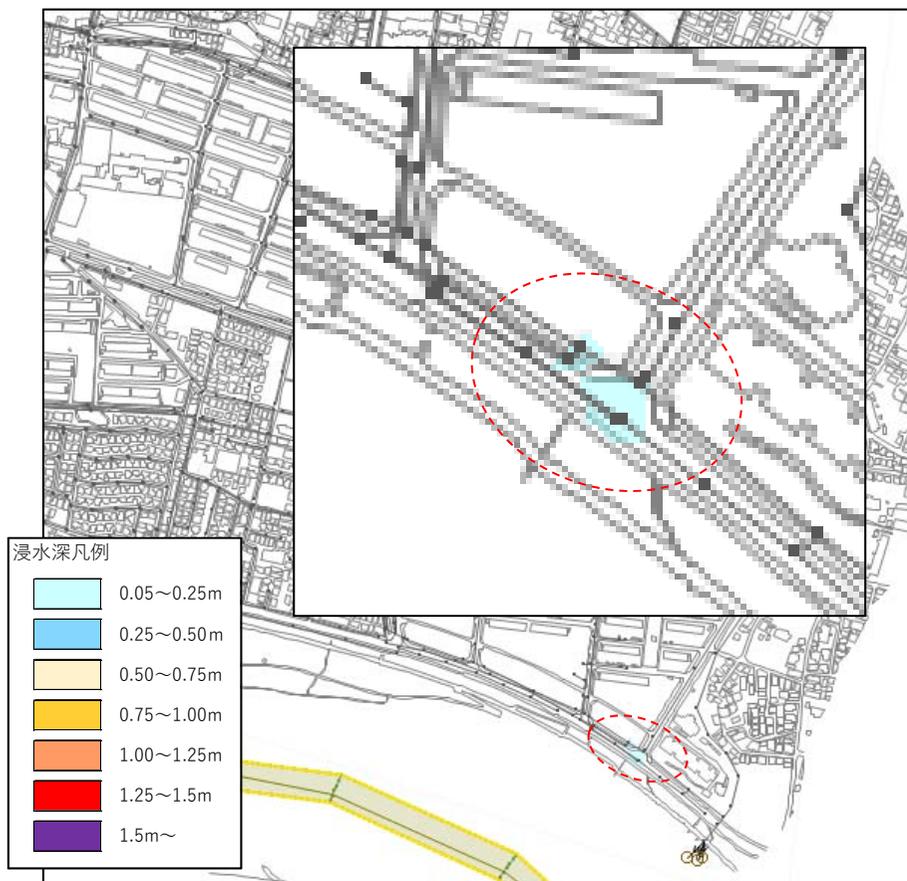
浸水深の比較 (cm)

場所	現地	調布市 計算	狛江市 計算
①	130	120	139
②	150	148	178
③	60	50	65
④	80	66	84
⑤	110	105	117

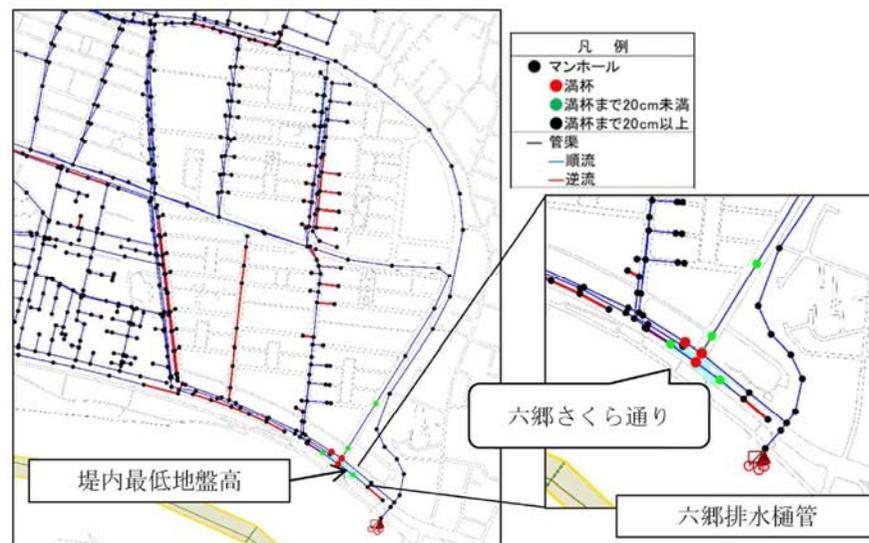
4. 狛江市検証結果との比較 (②浸水発生時刻)

■ 狛江市検証結果との浸水発生時刻の違い

調布市検証結果 10/12 13:35



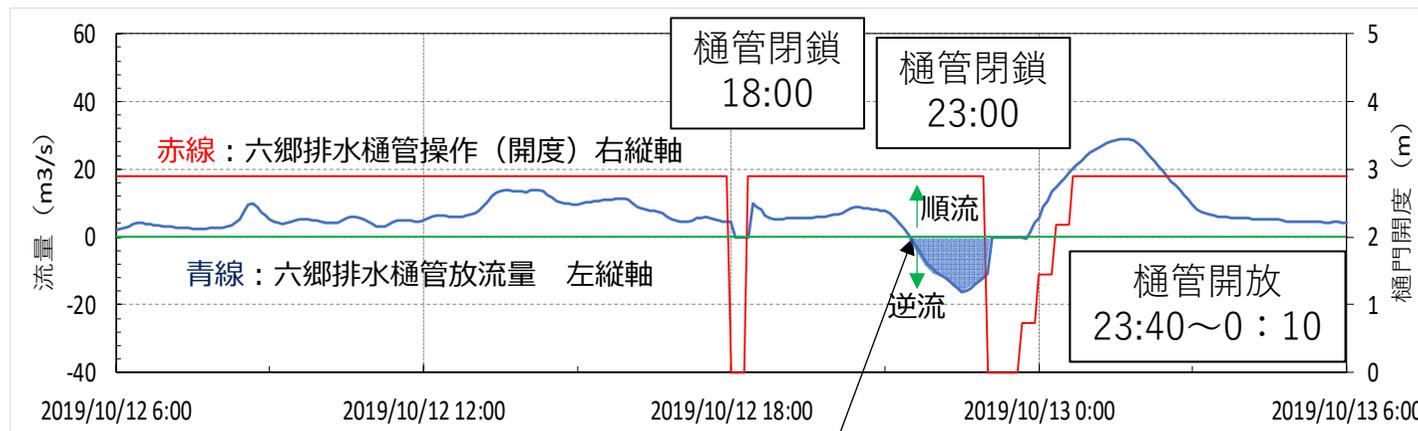
狛江市検証結果 10/12 13:30



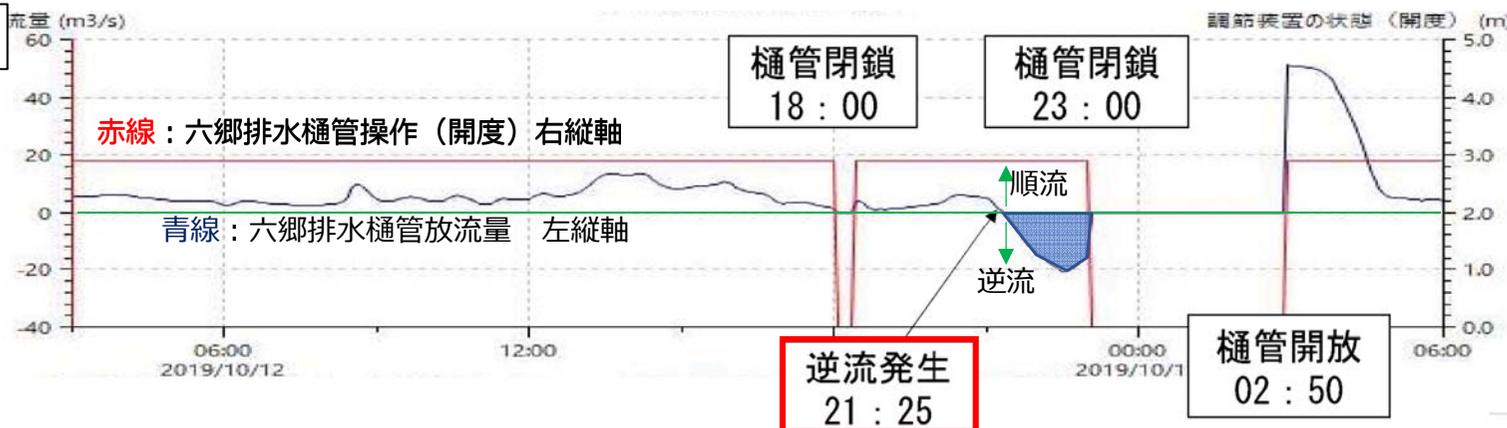
4. 狛江市検証結果との比較 (③逆流発生時刻)

■ 六郷排水樋管における狛江市検証結果との逆流発生時刻の違い

調布市検証結果



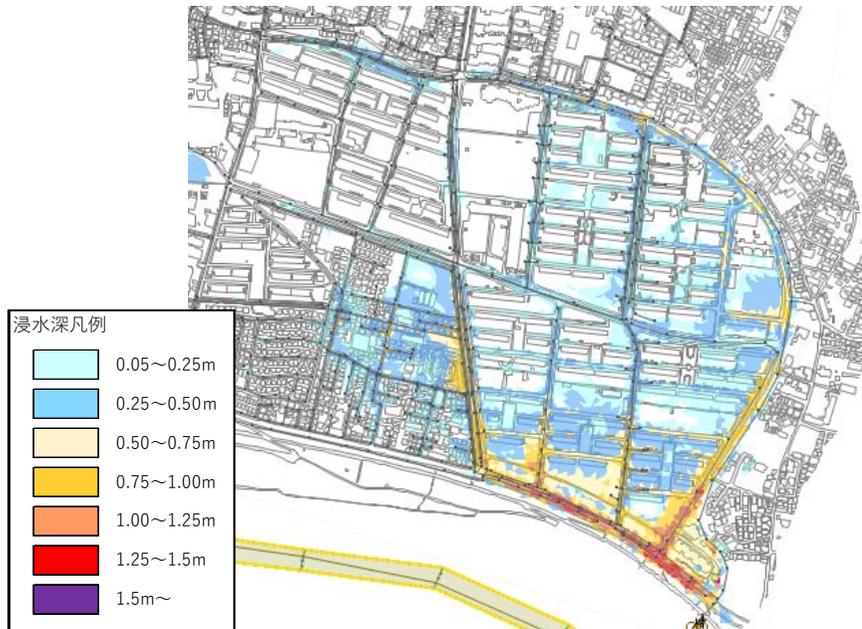
狛江市検証結果



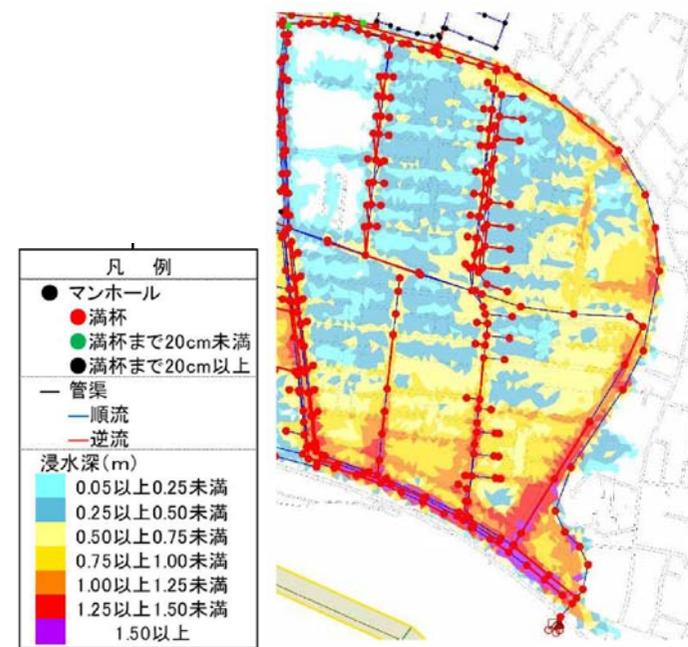
4. 狛江市検証結果との比較 (④浸水軽減時刻)

■ 狛江市検証結果と時刻での浸水軽減の違い

調布市検証結果
10/13 1:30



狛江市検証結果
10/13 1:30



4. 狛江市検証結果との比較 (⑤六郷排水樋管ゲート操作検証)

■ 六郷排水樋管ゲートの操作時刻を以下の3パターンに変更して解析

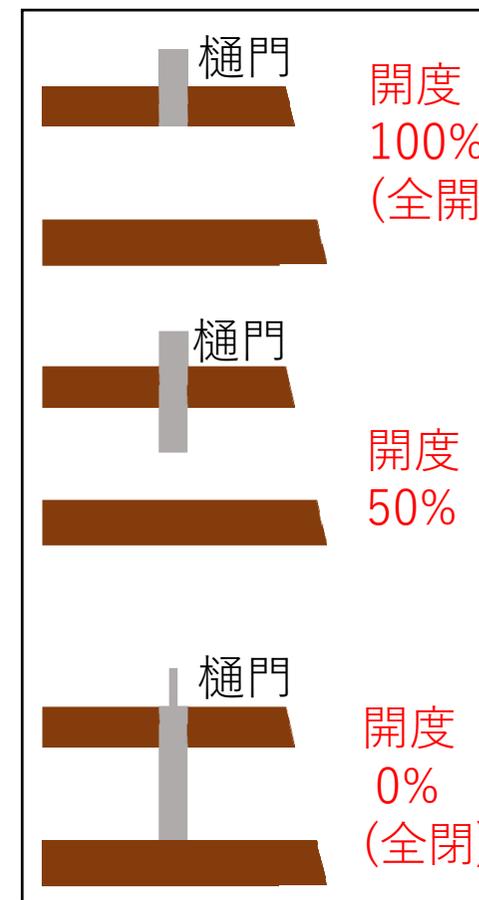
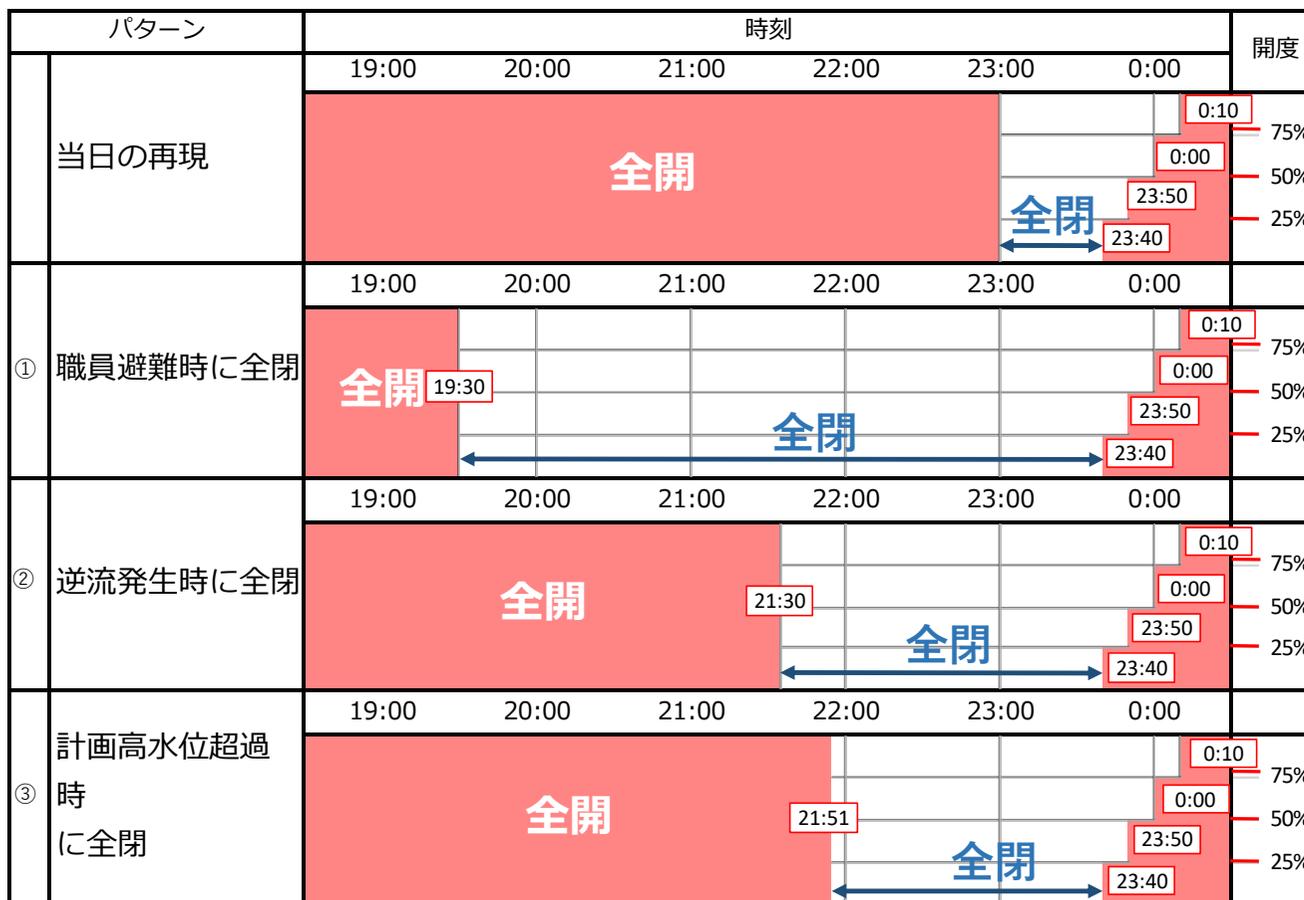
● 当日の再現 (23時にゲート全閉、その後23:40~0:10まで10分毎に25%ずつゲートを広げる)

① 職員避難時に全閉 (19:30にゲート全閉、23:40以降は当日の再現と同じ) (両市の検証)

② 逆流発生時に全閉 (21:30にゲート全閉、23:40以降は当日の再現と同じ) (両市の検証)

③ 多摩川水位が計画高水位超過時に全閉 (21:51にゲート全閉、23:40以降は当日の再現と同じ) (調布市のみの検証)

開度イメージ



4. 狛江市検証結果との比較 (⑤六郷排水樋管ゲート操作検証)

■ 六郷排水樋管ゲートの操作時刻3パターンごとの検証結果

● 当日の再現

- ① 職員避難時に全閉 → 当日の再現より浸水減少 (狛江市の検証結果と同様)
- ② 逆流発生時に全閉 → 最も浸水が少ない (狛江市の検証結果と同様)
- ③ 多摩川水位が計画高水位超過時に全閉 → 当日の再現より浸水減少、②より浸水増加 (調布のみの検証)

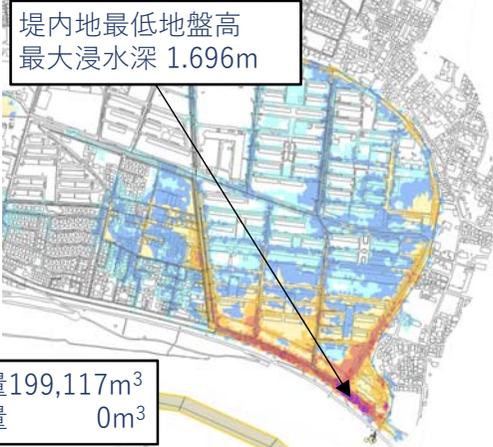
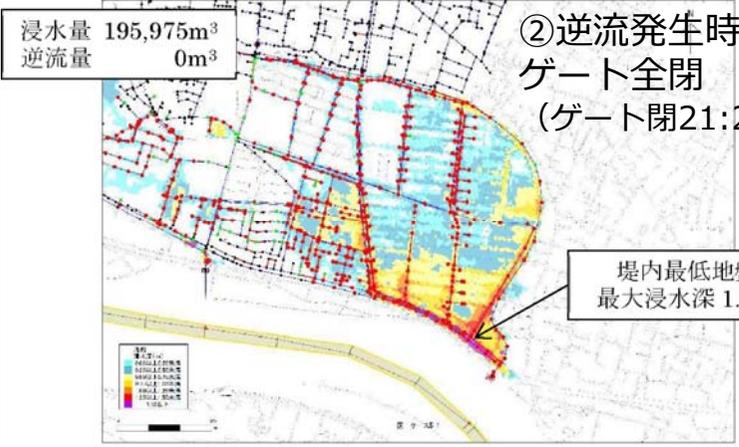
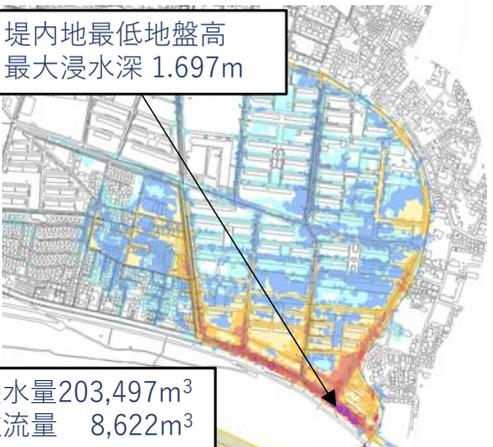
	調布市検証結果	狛江市検証結果
当日の再現	<p>当日の再現 (ゲート閉23:00)</p> <p>浸水深凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 0.05~0.25m 0.25~0.50m 0.50~0.75m 0.75~1.00m 1.00~1.25m 1.25~1.5m 1.5m~ <p>堤内地最低地盤高 最大浸水深 1.778m</p> <p>浸水量 248,542m³ 逆流量 60,600m³</p>	<p>堤内最低地盤高 最大浸水深 1.780m</p> <p>浸水量 265,270m³ 逆流量 85,340m³</p>
① 職員避難時に全閉	<p>②職員避難時に ゲート全閉 (ゲート閉19:30)</p> <p>当日の再現と 比較して若干 浸水減少</p> <p>堤内地最低地盤高 最大浸水深 1.760m</p> <p>浸水量 238,176m³ 逆流量 0m³</p>	<p>浸水量 217,624m³ 逆流量 0m³</p> <p>②職員避難時に ゲート全閉 (ゲート閉19:30)</p> <p>堤内最低地盤高 最大浸水深 1.696m</p>

4. 狛江市検証結果との比較 (⑤六郷排水樋管ゲート操作検証)

■ 六郷排水樋管ゲートの操作時刻を以下の3パターンに変更して解析

● 当日の再現

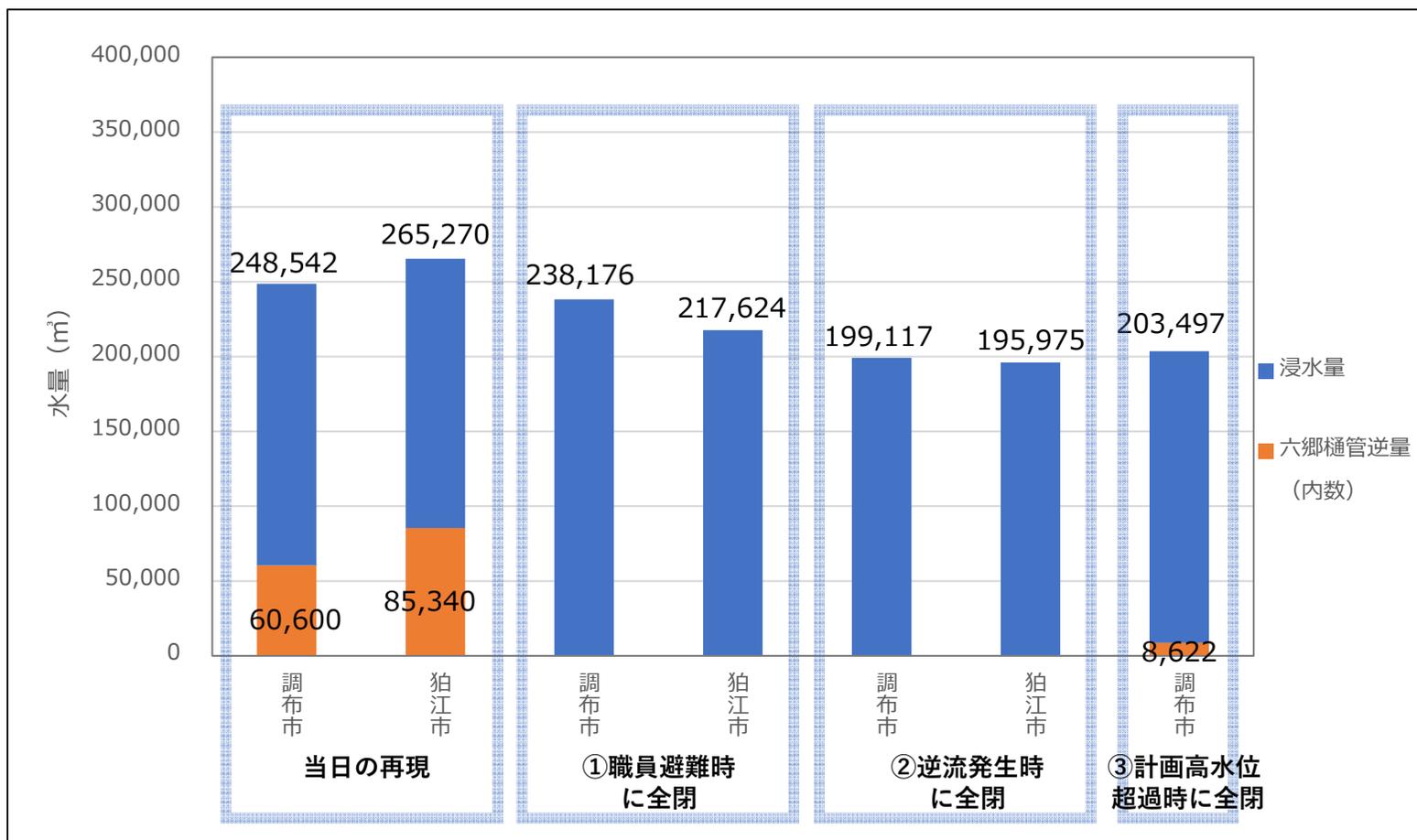
- ① 職員避難時に全閉 → 当日の再現より浸水減少 (狛江市の検証結果と同様)
- ② 逆流発生時に全閉 → 最も浸水が少ない (狛江市の検証結果と同様)
- ③ 多摩川水位が計画高水位超過時に全閉 → 当日の再現より浸水減少、②より浸水増加 (調布のみの検証)

	調布市検証結果	狛江市検証結果
② 逆流発生時に全閉	<p>②逆流発生時にゲート全閉 (ゲート閉21:30)</p> <p>当日の再現と比較して若干浸水減少</p>  <p>浸水量199,117m³ 逆流量 0m³</p>	<p>②逆流発生時にゲート全閉 (ゲート閉21:25)</p>  <p>浸水量 195,975m³ 逆流量 0m³</p> <p>堤内最低地盤高 最大浸水深 1.659m</p>
③ 計画高水位超過時に全閉	<p>③計画高水位超過時にゲート全閉 (ゲート閉21:51)</p> <p>当日の再現と比較して若干浸水減少</p> <p>②と比較して若干浸水増加</p>  <p>堤内地最低地盤高 最大浸水深 1.697m</p> <p>浸水量203,497m³ 逆流量 8,622m³</p>	<p>該当ケース無し</p>

4. 狛江市検証結果との比較（⑥浸水量）

- 六郷排水樋管ゲート操作検証ケースごとの全浸水量
（調布幹線流域、羽毛下・根川雨水幹線流域の合計）

→ 狛江市検証結果と同様に、逆流発生時にゲートを閉めたケースの浸水が最小



ケース毎の浸水量

5. 当面の対策について

■ 問題点の抽出

	問題点	内容
台風19号当日の問題	<u>①調布幹線における内水氾濫の防止を優先した操作判断</u>	・ 具体的な操作要領が無く、樋管を閉鎖することにより、内水氾濫が起きる可能性があるため、逆流が発生するまでは閉鎖しないこととしていた。
	<u>②樋管操作状況の情報が未共有</u>	・ 狛江市の樋管操作状況や対策について共有する体制が構築されていなかった。
	<u>③逆流の確認が目視では困難</u>	・ 内水(下水道)と外水(多摩川)の水位差を把握することが困難なことから、見た目の流れの向きのみで樋管開閉を判断した。
	<u>④調布幹線における水路のフラップゲート未設置</u>	・ 水路出口にフラップゲートがないことで調布幹線の水位上昇によって、調布幹線に合流する水路への調布幹線からの逆流が発生し、水路からの浸水が発生した。
想定される問題	<u>⑤長時間豪雨（線状降水帯など）</u>	・ 逆流、越水が発生した場合は、内水を排除する方法がない。
	<u>⑥道路冠水による行動制限</u>	・ 市役所から樋管に至るルートが道路冠水によりたどり着けない。

5. 当面の対策について

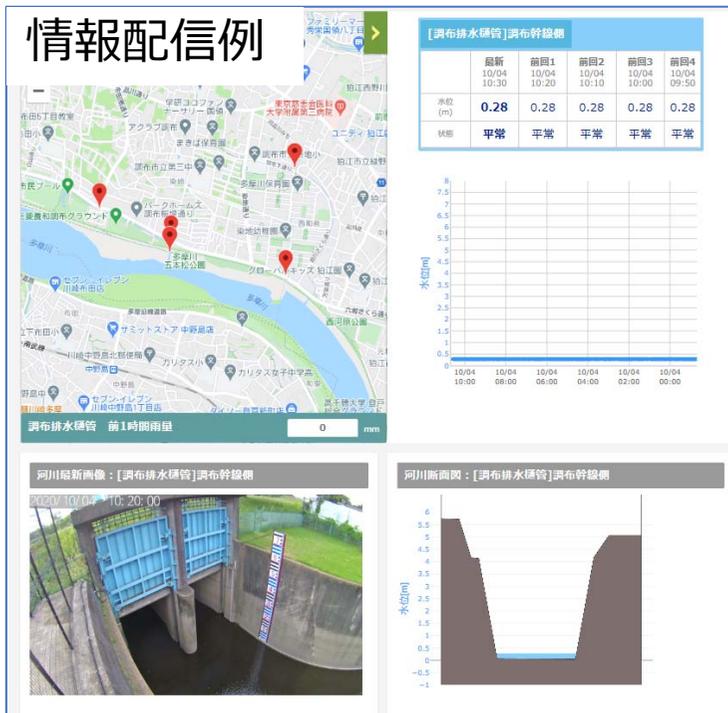
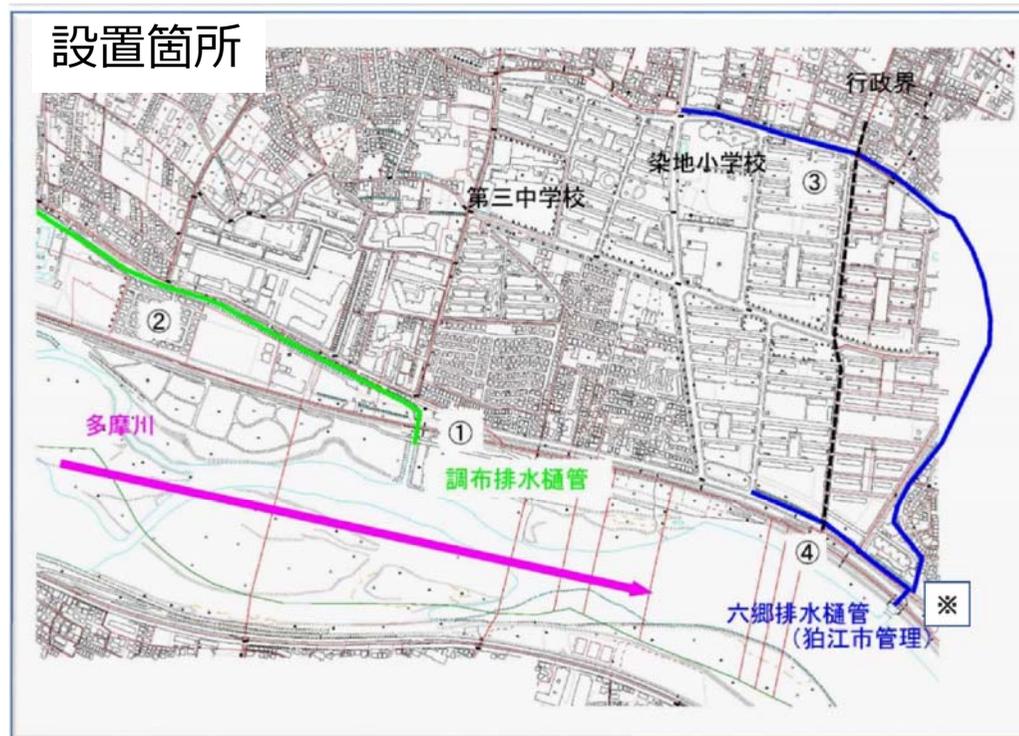
■ 対策

対策	内容	問題番号	対策実施状況
可搬式排水ポンプ配備	1分に3.3m ³ 排出できる可搬式排水ポンプを3台配備します。	⑤	5月未完了 (狛江市7月未完了)
水位情報等の公開	水位計情報、監視カメラ情報をHPでリアルタイム公開します。	③	6月未完了 (狛江市7月未完了)
水位計等の設置	水位計、監視カメラ、降雨計、流向計を設置します。	③	7月完了 (狛江市7月未完了)
流出解析業務	浸水原因究明、中長期的対策検討等を行います。		実施中(令和2年12月完了予定) (狛江市9月未完了)
樋管操作要領の整備	当面の対策において暫定運用は策定済(10/7策定)。今後流出解析結果から調布幹線のゲートの最適な運用ルールを定めます。	①	実施中(令和2年12月完了予定) (狛江市9月未完了)
樋管遠隔操作の検討	職員が現地に行かなくても樋管の開閉が遠隔操作できるかを検討します。	⑥	実施中(令和3年3月完了予定) (狛江市9月未完了)
調布市・狛江市の水害対応等に関する検討会	六郷排水樋管などの操作方法や連絡手段を含め、今後のハード・ソフト対策を総合的に構築します。	②	継続実施
調布市・狛江市合同水防訓練	調布市・狛江市による情報伝達訓練及びポンプ配置訓練	②	継続実施
逆流防止対策	逆流を防ぐために、調布幹線への水路出口にフラップゲートを設置します。	④	(調整中)

5. 当面の対策について

■ハード対策の進捗状況（水位計等設置箇所）

- ①調布排水樋管（調布幹線）
 - ・水位計（内外水計）、流向計、監視カメラ、降雨計
 - ②調布幹線
 - ・水位計（クラウド型水位計）
 - ③羽毛下幹線（下流部根川雨水幹線）
 - ・水位計（クラウド型水位計）
 - ④根川（根川雨水幹線）
 - ・水位計（クラウド型水位計）
- ※六郷排水樋管（狛江市設置）
 ・水位計（内外水位計）、流向計、監視カメラ、降雨計



5. 当面の対策について

■ハード対策の進捗状況（可搬式ポンプ配置）



排水ポンプ
(1分間に3.3m³排水できる
ポンプを3台)

配置箇所については、今後もより良い場所を検討します

5. 当面の対策について（調布排水樋管操作要領（暫定運用））

■ 調布排水樋管の暫定運用

<情報収集>

- ◆ 樋管に設置した操作室において、河川や河川利用、背後地の状況等を目視で確認。
- ◆ 調布市役所庁内において、カメラ画像、水位計及び流向計のデータ等を確認

<警戒体制>

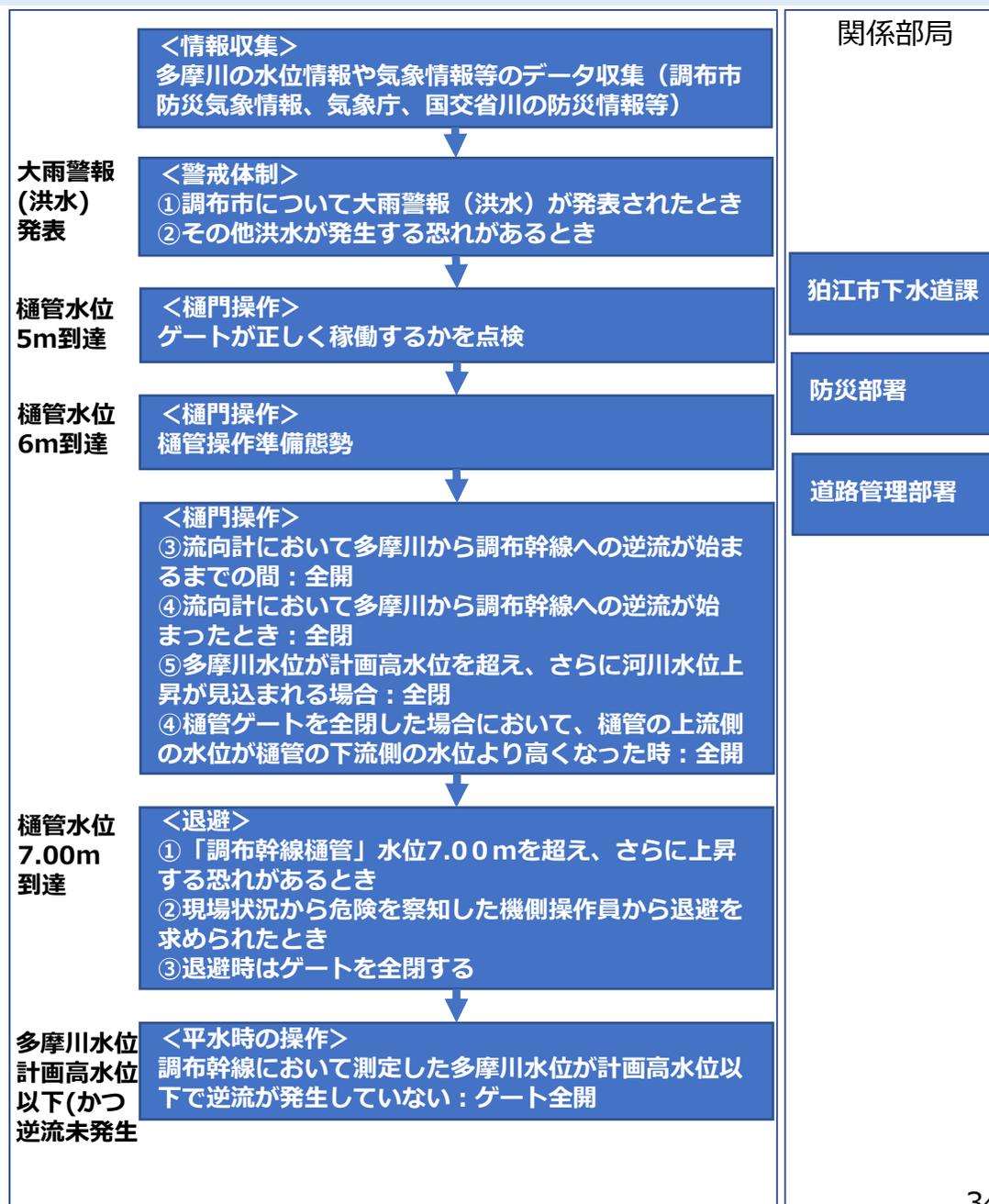
- ◆ パトロール要員3名以上と関係機関への連絡を行う庁内連絡員を2名以上等必要な体制を確保し、調布排水樋管及び調布幹線のパトロールを実施。
- ◆ 樋管を操作するため必要な機械、器具及び可搬式排水ポンプ等の点検（予備電源設備の試運転を含む）及び整備を行う。
- ◆ 樋管における内外水位計、監視カメラ、流向計、多摩川水位及び小河内ダムの放流状況を常に観測し、庁内防災部署、道路管理部署及び狛江市下水道課との連絡、情報収集を密に行う。（上流部の日野橋、浅川橋及び調布橋の水位も観測する）

<退避条件>

- ◆ 緊急を要する場合は、機側操作員が市長の指示以前に退避できるものとし、退避後速やかに退避場所及び退避時の操作状況の報告を行う。

<その他>

- ◆ 樋管を操作したときは、操作の記録を行う。
- ◆ 樋管及び樋管を操作するための機械、器具等については、点検及び整備を行い、常に良好な状態に保つ。



5. 当面の対策について (六郷排水樋管操作要領)

■ 六郷排水樋管の運用

<樋管水位2.0m未満>

- ◆ 大雨洪水警報または台風等による水位上昇が見込まれる場合は、国土交通省【川の防災情報】、観測所「石原」の水位、樋管の水位情報の動向を注視し、下水道課職員が巡回監視する。

<樋管水位2.0m到達>

- ◆ 下水道課職員が現場に常駐し、水位を監視する。
- ◆ 下水道課から安心安全課及び調布市下水道課に常駐連絡をする。
- ◆ 非常用排水ポンプの準備をし、試運転をする。

<樋管水位3.0m到達>

- ◆ 流域の雨の状態、根川雨水幹線の順流・逆流等を考慮し、開閉について検討する。

<樋管水位3.7m到達>

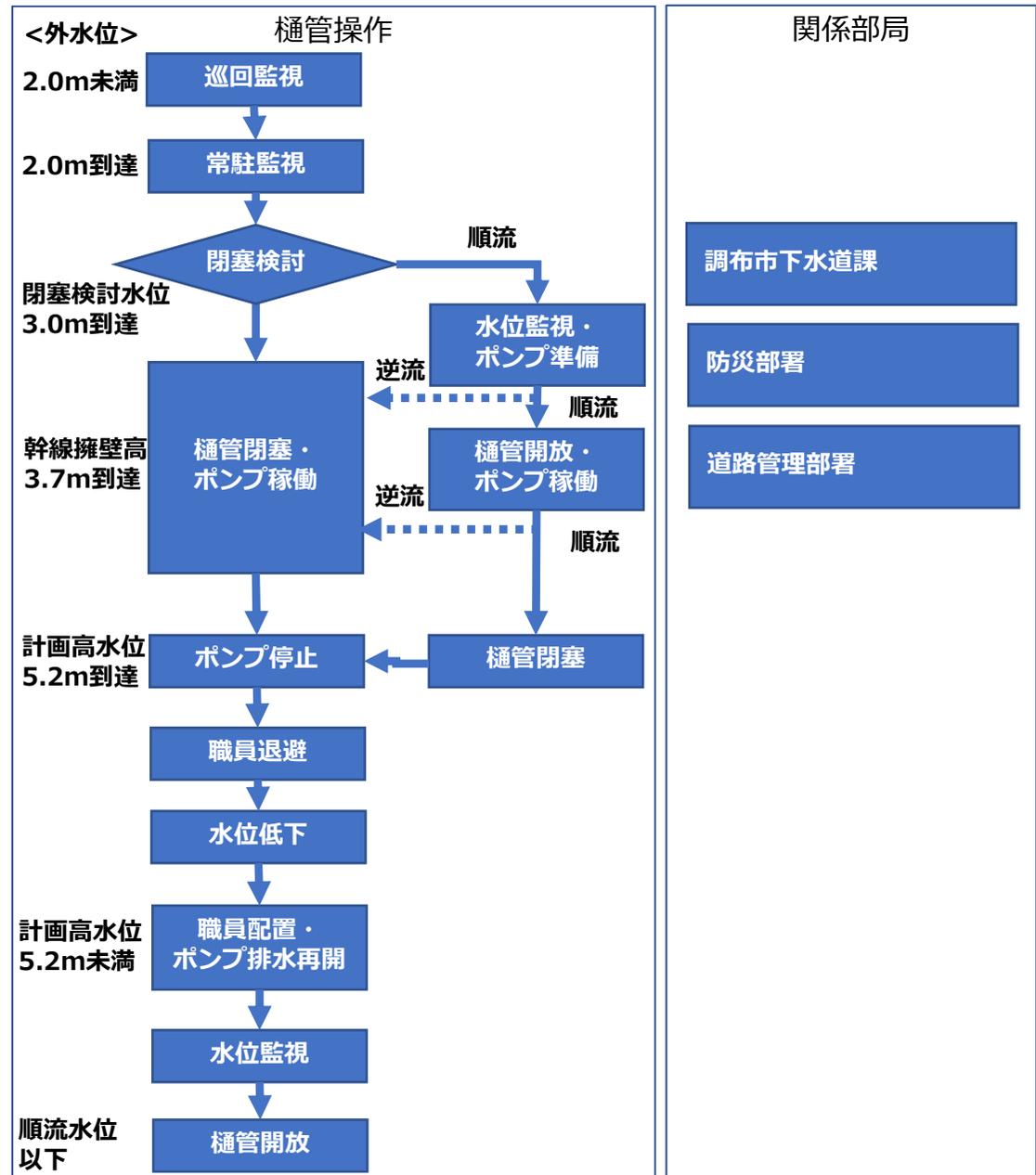
- ◆ 順流・逆流問わず、ポンプ排水作業を実施する。逆流が生じた場合は、樋管を閉鎖し、ポンプ排水作業を継続する。

<樋管水位5.2m到達>

- ◆ 順流・逆流問わず、樋管を閉鎖するとともに、ポンプ排水を停止し、現場従事者は退避する。

<樋管水位5.2m未満>

- ◆ 樋管への移動経路が確保され、樋管の操作を安全に行える状態となったと判断した場合、樋管の常駐を再開し、ポンプ排水を再開する。
- ◆ 樋管の水位が順流水位以下となった場合、樋管を全開する。

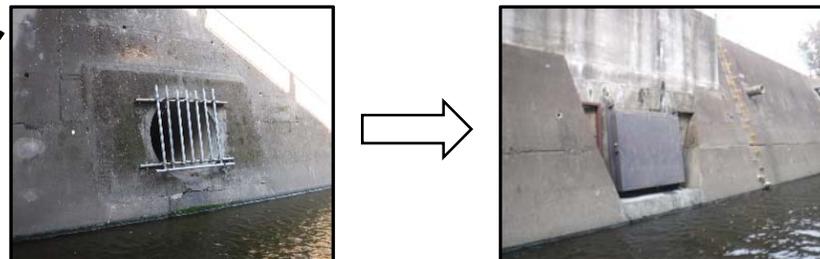


6. 最終報告までの課題（最終報告）

■ 流出解析に基づく「調布排水樋管操作要領」の策定

■ 短期的な対策

- ・ 調布幹線に接続する水路にフラップゲートを設置するとともに効果をシミュレーション



■ 中長期的な対策の検討 (対策例)

- ・ 排水樋管のゲート閉鎖時における排水の可能性について
- ・ 溢れた水を貯留する施設について
- ・ 調布幹線，根川雨水幹線を流れる雨水量の抑制　ほか

■ 狛江市との連携

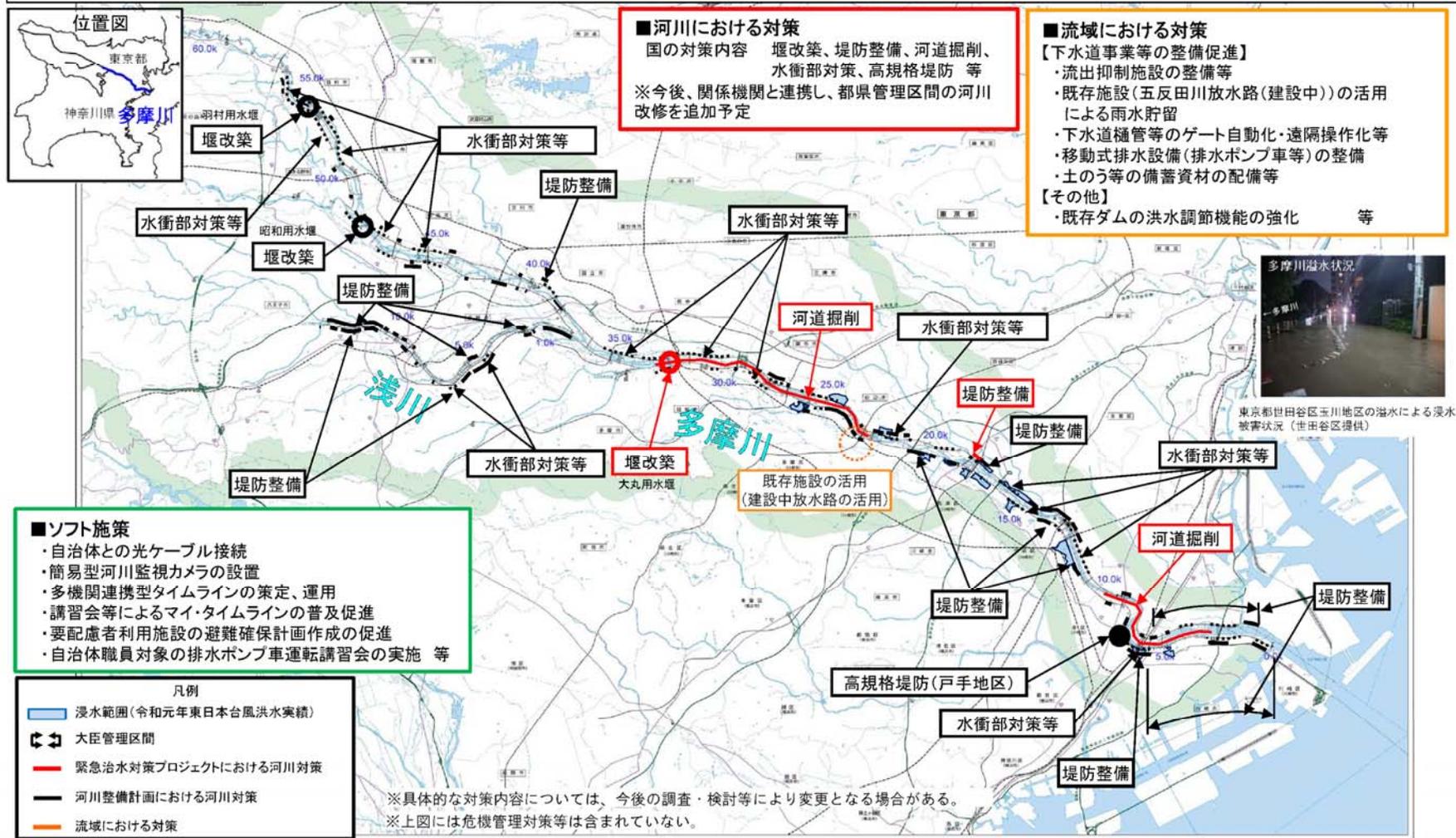
- ・ 調布市・狛江市の水害対応等に関する検討会の継続開催
- ・ 調布市・狛江市合同水防訓練の継続実施

7. 国土交通省の多摩川における対策

■多摩川水系流域治水プロジェクト (素案)

多摩川水系流域治水プロジェクト ～首都東京への溢水防止及び沿川・流域治水対策の推進～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、多摩川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、戦後最大の令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。



7. 国土交通省の多摩川における対策

■多摩川緊急治水対策プロジェクト

多摩川緊急治水対策プロジェクト
 ～首都東京への溢水防止及び沿川・流域治水対策の推進～

【令和2年度版】

- 令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した、多摩川において、国、都、県、市区が連携し、「多摩川緊急治水対策プロジェクト」を進めています。
- 国、都、県、市区が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、「社会経済被害の最小化」を目指します。
 - ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
 - ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
 - ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】
- 令和2年度から護岸等の本格的な災害復旧や、河道掘削等の改良復旧、簡易型河川監視カメラの設置等を進めていきます。



■河川における対策

全体事業費 約191億円
 災害復旧 約 28億円
 改良復旧 約163億円

事業期間 令和元年度～令和6年度
 目標 令和元年東日本台風洪水における本川からの越水防止

対策内容 河道掘削、樹木伐採、堰改築、堤防整備 等
※四捨五入の関係で合計値が含まない場合がある。

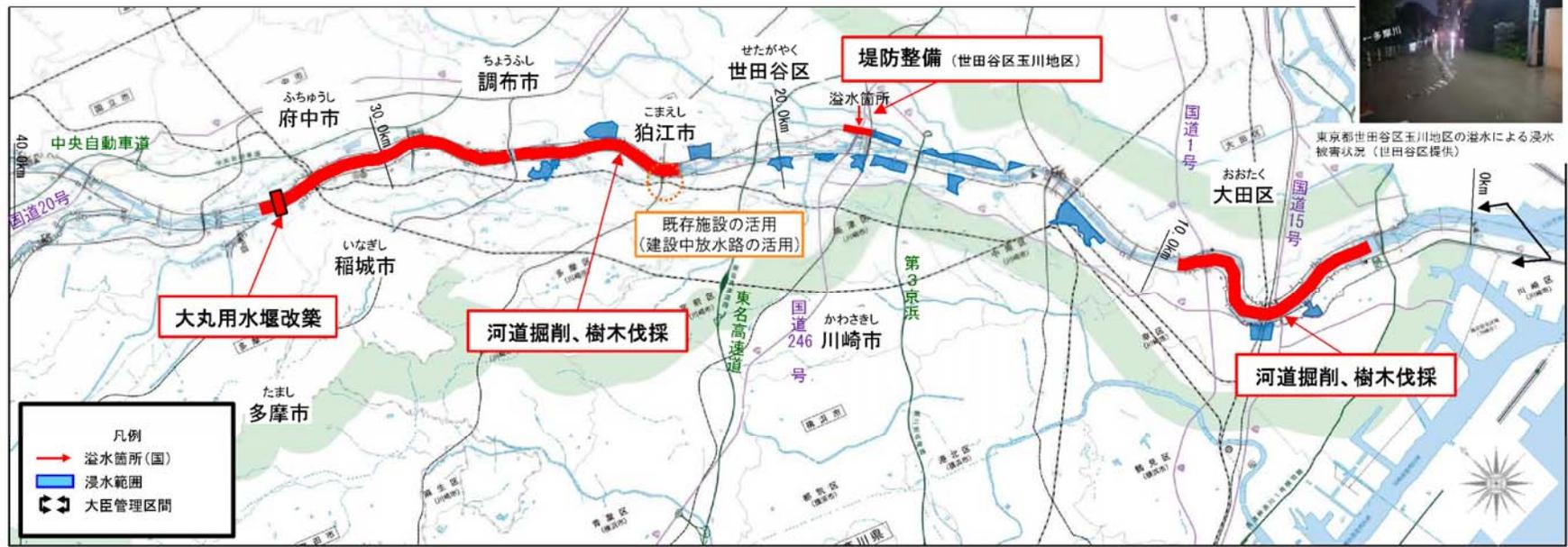
■流域における対策

(下水道事業等の整備促進)

- ・流出抑制施設の整備等
- ・既存施設(五反田川放水路(建設中))の活用による雨水貯留
- ・下水道樋管等のゲート自動化・遠隔操作化等
- ・移動式排水設備(排水ポンプ車等)の整備
- ・土のう等の備蓄資材の配備等

■ソフト施策

- ・自治体との光ケーブル接続
- ・簡易型河川監視カメラの設置
- ・多機関連携型タイムラインの策定、運用
- ・講習会等によるマイ・タイムラインの普及促進
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・自治体職員対象の排水ポンプ車運転講習会の実施 等



※計数及び対策については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある

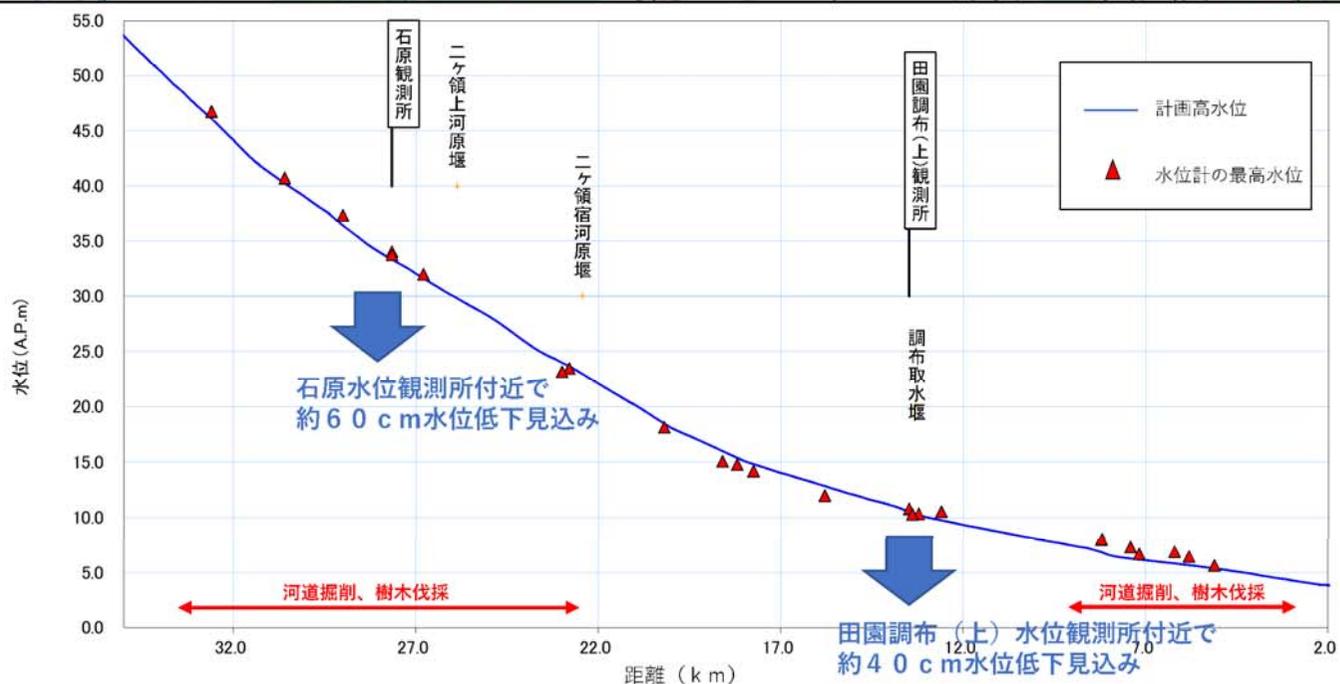
7. 国土交通省の多摩川における対策

■多摩川緊急治水対策プロジェクト

多摩川緊急治水対策プロジェクト

～河川における対策～

- 多摩川緊急治水対策プロジェクトでは、令和6年度までに河道掘削、堰対策、堤防整備を実施します。
- 令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、水位を低下させ、多摩川からの氾濫を防止します。



7. 国土交通省の多摩川における対策

■多摩川緊急治水対策プロジェクト

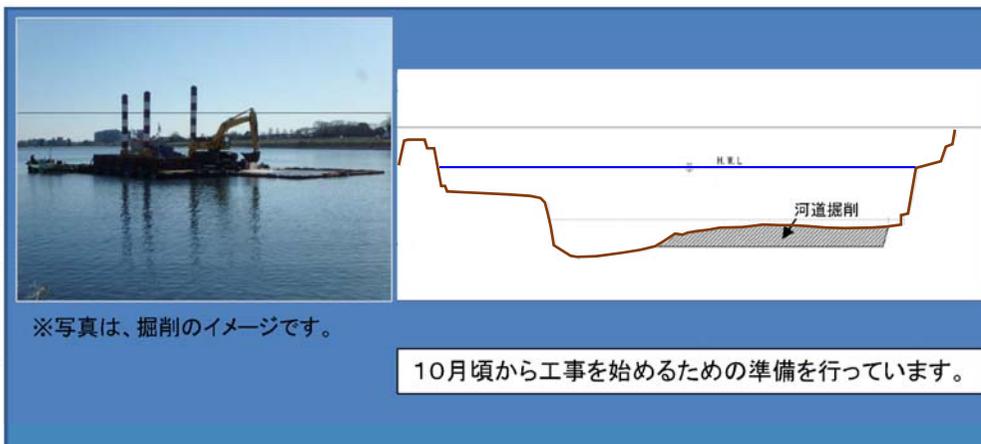
- ・令和2年度、河道掘削工事
- ・詳細な内容については「多摩川緊急治水対策プロジェクト」で検索をお願いします

多摩川

R1 多摩川上河原堰上流掘削工事

●工事箇所位置図

●工事風景



※写真は、掘削のイメージです。

10月頃から工事を始めるための準備を行っています。

工事箇所	多摩川 東京都調布市多摩川五丁目地先
工事期間	令和2年7月29日～令和3年3月31日
工事内容	工事目的：洪水が流れる断面を増やし洪水時の水位を低減させるため、河道を掘削する工事です。 工事概要：河道掘削（しゅんせつ工）、掘削土運搬

この工事に関するお問い合わせは→

京浜河川事務所 多摩出張所

東京都稲城市大丸3117-1 Tel. 042-377-7403